中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第13集

横尾地区遺跡群II

－県営ほ場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概報－

中沢遺跡Ａ区・七日市遺跡Ｂ区・小塚遺跡

1995.3

群馬県中之条町教育委員会

序

群馬県西北部に位置する中之条町は、その恵まれた自然環境のもとに古代から吾妻方面の中心的位置を占めてきました。また、近年は四万、沢渡両温泉をもつ観光地としても知られています。

最近中之条町では土地改良事業などの開発に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査事業が急増しつつあります。これらの調査の成果として田畑の下から、また道路などの下から現れた遺跡は、様々な町の過去を我々の目の前によみがえらせてくれます。調査によって得られた記録はかけがけのないものであり、中之条町の歴史そのものであるといえるでしょう。

今回の埋蔵文化財発掘調査は横尾地区ほ場整備事業に伴うもので、平成4年度につづき本格的な発掘調査事業としては2年目となるものです。前年度の調査では、古墳時代から平安時代の住居、古墳時代の水田などが見つかっていますが、5年度の範囲もほぼ同様の遺跡が発見されるであろうと予測されました。発掘調査の結果は概ね予測した通りであり、おもに古墳時代から平安時代の住居、古墳時代の水田が見つかっています。

これらの遺跡は、中之条町の過去を知るために不可欠であるとともに、将来へ向けての研究、教育にとっても貴重な資料となることと思います。

最後になりましたが、発掘調査に当たりご指導ならびにご協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成7年3月

中之条町教育委員会

教育長　中澤　恒夫

例　　言

1　本書は、県営ほ場整備事業横尾地区に伴い、中之条町教育委員会が平成5年度に実施した中沢遺跡A区・七日市遺跡B区・小塚遺跡の発掘調査概要報告書である。

2　発掘調査は平成5年4月19日から平成6年3月30日まで行った。遺物整理作業は平成5年度および6年度に、また報告書作成は平成6年度に行った。

3　発掘調査は、群馬県渋川土地改良事務所の委託を受けて、中之条町教育委員会が実施した。

4　発掘調査は、渋川土地改良事務所からの委託金、国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金、群馬県文化財保存事業費補助金により実施した。

5　調査組織は以下の通りである。

教育長　　一場秀司（平成5年11月15日まで）
　　中澤恒夫（平成5年11月16日より）
社会教育課長　植木正勝
社会教育係長　水出隆夫
調査担当　　主事　須﨑幸夫　　主事補　末吉美佐

6　本書の執筆および編集は末吉美佐が行い、挿図の作成は末吉美佐、清水夏子が行った。

7　遺構の写真撮影は須﨑幸夫、末吉美佐が行った。遺物の写真撮影および遺構実測図のトレースは末吉美佐が行った。

8　本調査における記録・出土遺物については、中之条町教育委員会において保管している。

9　調査ならびに本書の編集に際しては、下記の方々にご指導ご協力をいただいた。（敬称略）
群馬県教育委員会　渋川土地改良事務所　古環境研究所　株式会社測研　佐藤明人
若林正人　高柳正春　長谷川一郎　早田　勉

10　発掘調査作業員は下記の通りである。（50音順・敬称略）
青柳七郎　池原文子　入沢芳子　唐沢国一郎　唐沢里う江　桜井文子　佐藤啓子
清水夏子　関トシエ　田村さだ　冨沢美野留　生須　博　濱野住次　原沢とし子
星野麗子　山本芳雄　綿貫絢子　綿貫宮子

凡　　例

1　遺構実測図中の断面基準線は標高で表し、方位記号は座標北を示す。

2　グリッドについては国家座標を用い、表記については座標値の下3ケタを使用している。

（例）　230—435グリッド：X＝66230・Y＝－86435

3　遺構実測図の縮尺は次の通りである。

全体図　1／400　住居址　1／60　水田址　1／120

4　遺構・遺物の写真の縮尺は統一していない。遺物写真については参考までに10cmスケールを写しこんである。写真中の番号は、実測図中の遺物番号を示す。

目　　次

序

例　言

凡　例

Ⅰ　調査にいたる経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と周辺遺跡 …… 1

Ⅲ　調査の方法と経過 …… 1

Ⅳ　中沢遺跡Ａ区 …… 3

1　基本層序 …… 3

2　調査の概要 …… 4

3　検出された遺構と遺物 …… 6

Ⅴ　七日市遺跡Ｂ区 …… 19

1　基本層序 …… 19

2　調査の概要 …… 20

3　検出された遺構と遺物 …… 20

Ⅵ　小塚遺跡…… …… 27

1　基本層序 …… 27

2　調査の概要 …… 27

3　検出された遺構と遺物 …… 30

Ⅶ　ま と め …… 31

I　調査にいたる経緯

県営ほ場整備事業横尾地区は、中之条町の東部を流れる名久田川の右岸に位置し、約154haの面積を占めている。この地区には、奥山原遺跡、長久保遺跡など周知の遺跡が多数存在している。また、平成2年度に行った本地区の分布調査により、埋蔵文化財の包蔵地が広範囲に及んでいることが明らかになった。このため、渋川土地改良事務所および町農林課土地改良係との協議の結果、道水路部分ならびに遺構が破壊される切土部分については埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存の措置を行うこととなった。

II　遺跡の位置と周辺遺跡

中之条町は群馬県の北西部、吾妻郡の北東部に位置する。中央部に四万川、東部に名久田川が南流し、南部を流れる吾妻川に注ぐ。これらの河川の合流点付近に発達している山間盆地が中之条盆地である。これらの河川の流域には数段の河岸段丘が発達しており、吾妻川流域の河岸段丘上に中之条町、吾妻町の市街地が形成されている。また、他の河川の河岸段丘上にも平坦部分を中心として集落や耕地が広がっている。

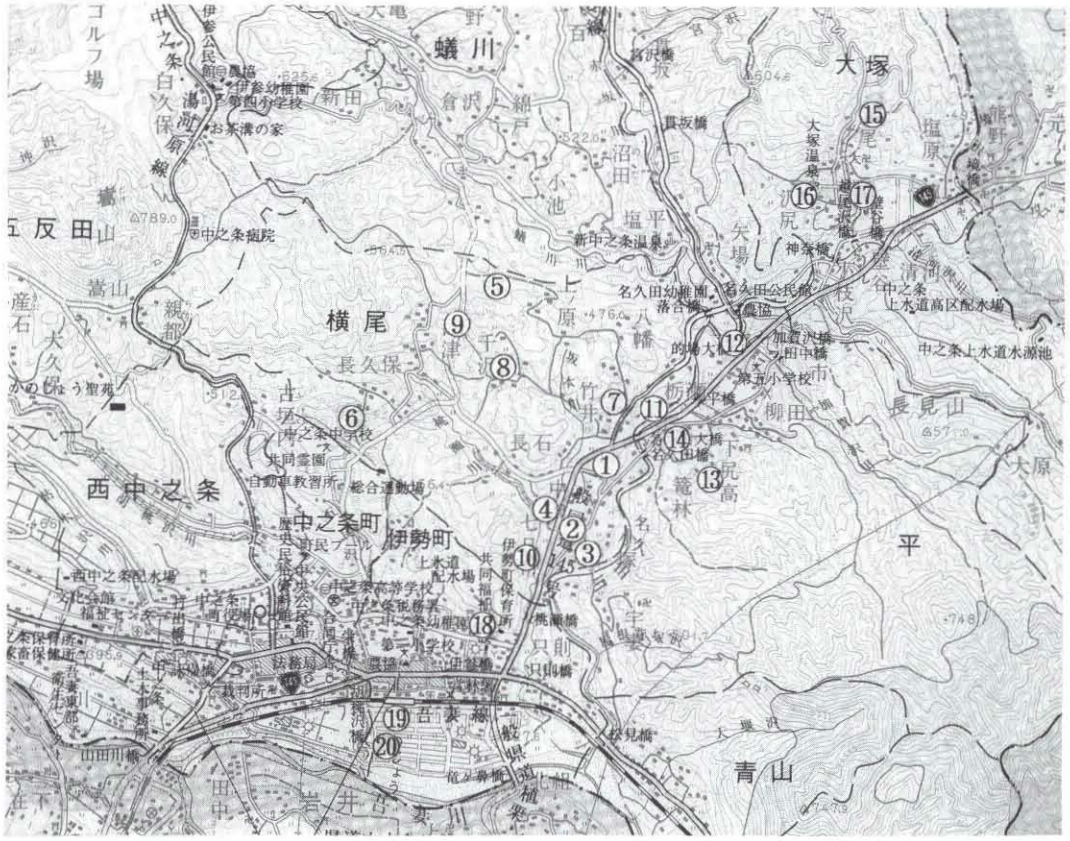
中沢遺跡A区、七日市遺跡B区、小塚遺跡は中之条町大字横尾1500番地外に所在し、中之条駅の北東約1.5km、東側の国道145号線と西側の名久田川に挟まれた地域にある。中沢・七日市遺跡は標高360～370m前後、小塚遺跡はそれらより1段低い標高350m前後であり、いずれの遺跡も名久田川右岸の河岸段丘上の平坦地に位置する。調査地の周辺はおもに水田や畑地である。

次に周辺に存在する遺跡について概観する。横尾地区遺跡群内には、縄文時代とみられている奥山原遺跡、古墳時代の集落跡と思われる長久保遺跡、名久田中学校遺跡、千沢遺跡、高津遺跡、桃瀬遺跡がある。名久田川の南岸の平地区には、町指定の樋塚古墳を含む平古墳群、昭和61年度調査の下平遺跡、昭和63年度調査の下尻高遺跡、菅田遺跡がある。横尾地区の北東に位置する大塚地区には、縄文時代と思われる諏訪原遺跡、昭和59年度調査の五十嵐遺跡、昭和60年度調査の宿割遺跡がある。市街地周辺には、昭和54年度に調査された奈良時代の天台瓦窯遺跡があり、駅南には、弥生～奈良・平安時代にわたる集落跡の天神遺跡・川端遺跡などがみられる。

III　調査の方法と経過

発掘調査は平成5年4月19日から平成6年3月30日まで実施した。

中沢遺跡A区・七日市遺跡の調査は、前年度の2・3月にかけて行った試掘調査に基づき、遺構



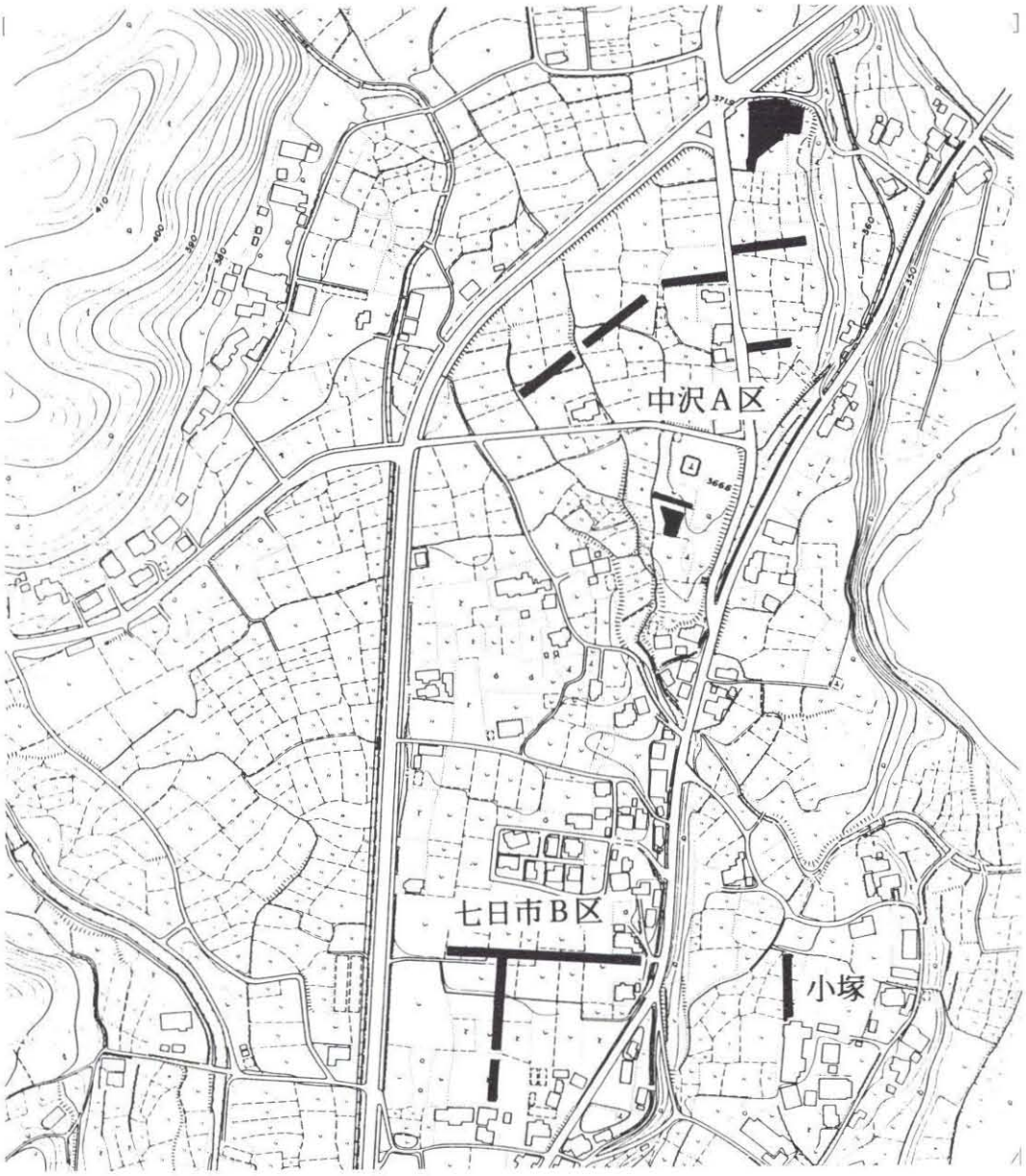
第１図　遺跡の位置と周辺遺跡（１／50,000）

①中沢遺跡Ａ区　②七日市遺跡Ｂ区　③小塚遺跡　④七日市遺跡Ａ区　⑤奥山原遺跡
⑥長久保遺跡　⑦名久田中学校遺跡　⑧千沢遺跡　⑧高津遺跡　⑩桃瀬遺跡　⑪樋塚古墳
⑫下平遺跡　⑬下尻高遺跡　⑭菅田遺跡　⑮諏訪原遺跡　⑯五十嵐遺跡　⑰宿割遺跡
⑱天台瓦窯遺跡　⑲天神遺跡　⑳川端遺跡

が確認された道水路および切土部分について調査区を拡張して行った。調査期間は当初の予定では８月末日であったが、前年度に試掘調査を実施できなかった切土部分から予想以上の遺構が検出されたため、12月10日まで期間を延長した。

小塚遺跡の調査は、平成６年度工事予定地域の発掘調査を行い、遺構の確認された部分を拡張して本調査を実施した。試掘調査は平成６年２月２日から３月31日まで行った。遺構の確認された部分がわずかであったため、本調査は試掘調査と並行して３月10日から３月30日に実施した。

調査に際してはグリッド法を適用し、国家座標を用いて５ｍ間隔で設定した。

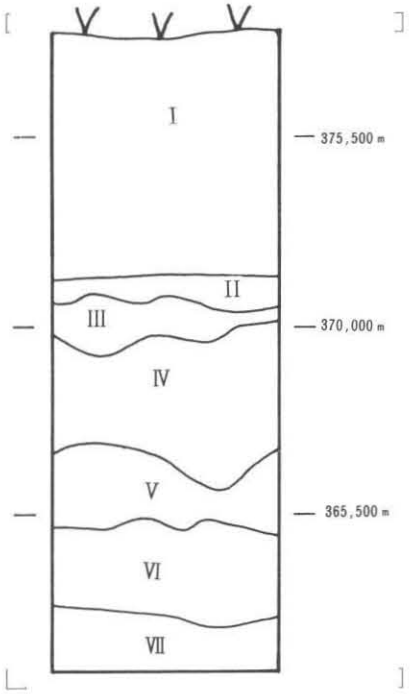


第２図　遺跡調査区設定図（１／5,000）

Ⅳ　中沢遺跡Ａ区

１　基本層序

中沢遺跡Ａ区は調査区が点在している。また、表土の堆積がかなり薄くなっている地区が多いため、土層断面の状想が比較的良好であったＡ－１区で土層観察を行った。



I	耕作土	浅間Ｂ軽石をやや多く含む
II	暗赤灰色土	酸化しており、赤みをおびる 浅間Ｂ軽石をやや多く含む
III	黒色土	上層の攪乱を受けている
IV	黒色土	ローム粒、小ブロックを微量含む
V	明褐色土	ローム漸移層
VI	黄橙色ローム層	
VII	橙色ローム層	

第３図　中沢遺跡Ａ区基本土層

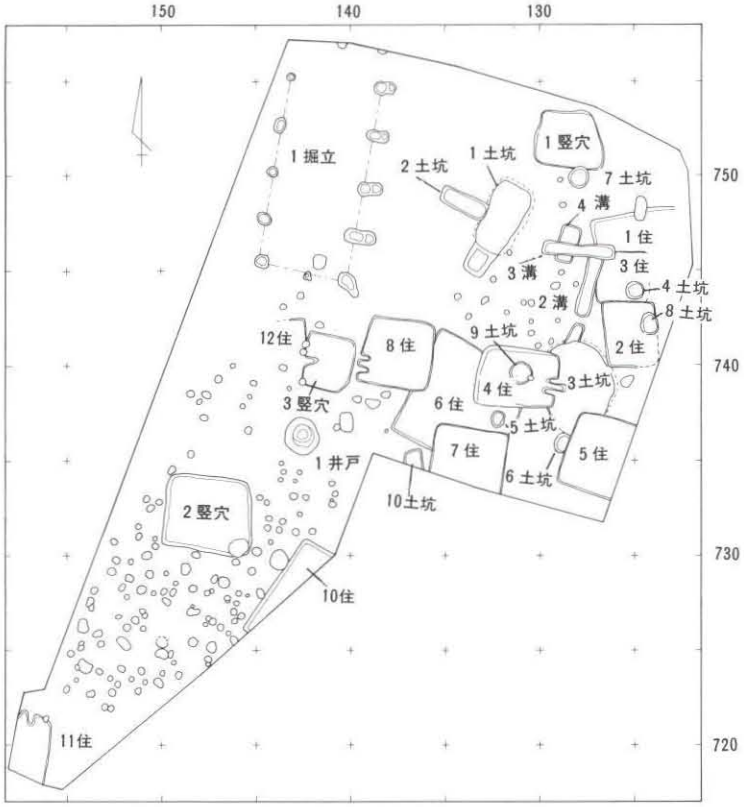
2　調査の概要

中沢遺跡Ａ区は、道水路部分および切土部分にしたがって調査区を設定している。そのため、調査区が飛地状に位置する。したがって、調査の便宜上Ａ－１区からＡ－６区までの６つの名称をつけ、遺構番号は遺構の種類別にＡ－１区からＡ－６区の順に通し番号をつけている。遺跡全体での遺構数は、住居址21軒、竪穴式建物跡４軒、掘立柱式建物跡１軒、井戸址２基、土坑37基、水田40面、溝状遺構６条、ピット189基であった。

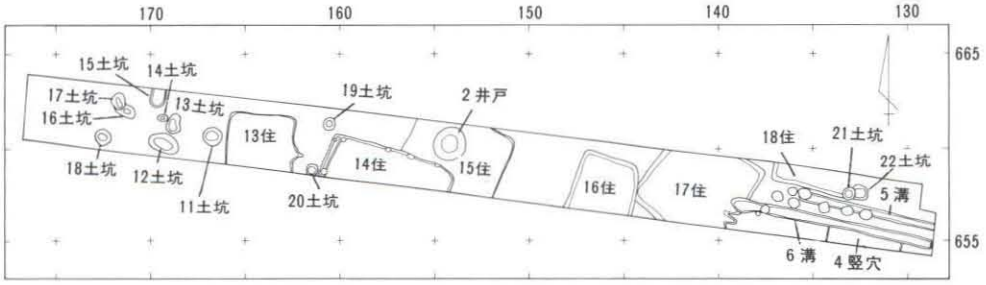
Ａ－１区では、住居址11軒、竪穴式建物跡３軒、掘立柱式建物跡１軒、井戸址１基、土坑10基、溝状遺構４条が検出された。（なお、９号住居址については調査途中で改称したために欠番扱いである。）Ａ－２区からは、住居址６軒、竪穴式建物跡１軒、井戸址１基、土坑12基、溝状遺構２条、ピット15基が検出された。Ａ－３区では、住居址２軒、ピット７基、Ａ－４区からはＦＡ直下の小区画水田40面が検出された。Ａ－５区から住居址２軒と溝状遺構２条が検出され、Ａ－６区からは土坑のみ15基が検出されている。

時代別にみると、弥生時代の遺構は住居址１軒(21住)である。古墳時代では住居址６軒（３・６・８・10・13・20住)、竪穴式建物跡３軒（１・２・３竪穴)、土坑１基(22土坑)、ＦＡ直下の溝状遺構１条(８溝)、古墳時代あるいはそれ以前と思われる住居址１軒(１住)、土坑２基（１・３土坑）が検出された。奈良時代では住居址１軒(15住)、平安時代は住居址６軒（２・４・11・14・16・17住)、奈良・平安時代であるが残存状況が悪く断定できない住居址２軒(５・７住)、平

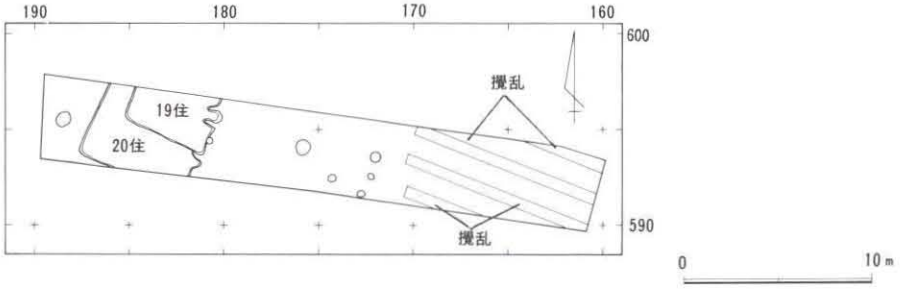
A－1区



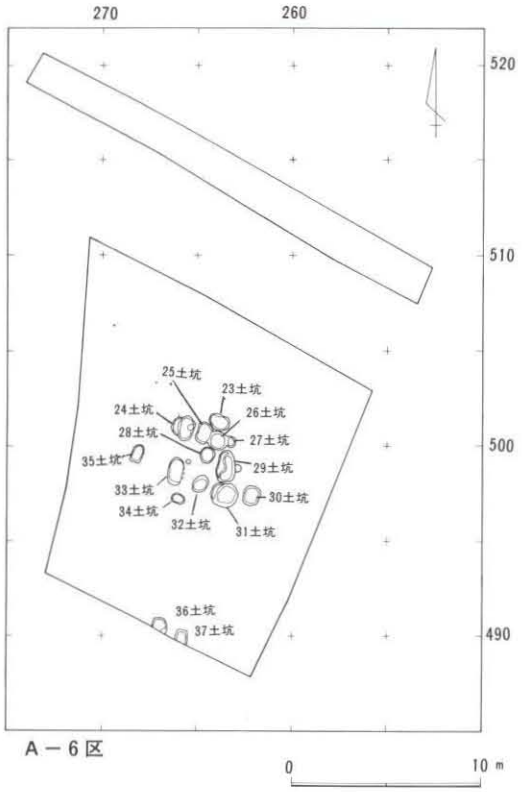
A－2区



A－3区



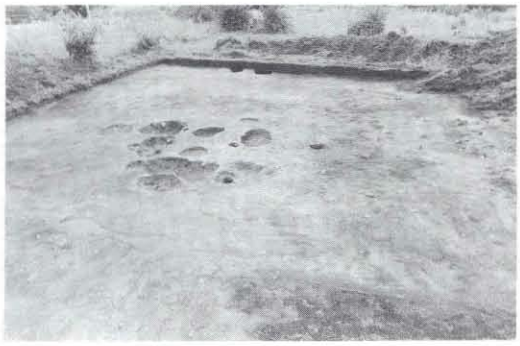
第4図　中沢遺跡A区全体図(1)



第5図　中沢遺跡A区全体図(2)

安時代あるいはそれ以降と思われる掘立柱式建物跡1軒(1掘立)であった。時期不明の遺構は、住居址3軒（12・18・22住)、竪穴式建物跡1軒（4竪穴)、井戸址2基(1・2井戸)、土坑34基（2・4～21・23～37土坑)、溝状遺構7条(1～7溝)であり、ピットについてはすべて、時代を特定できない。

全体的にみると、ほとんどの遺構は表土の堆積が浅く、耕作によって上部をかなり削平されているため、残存状態が悪いものが多くなっている。また、降雨のために調査区内が水没したことも数回あり、調査中の遺構の状態をさらに悪化させることになった。



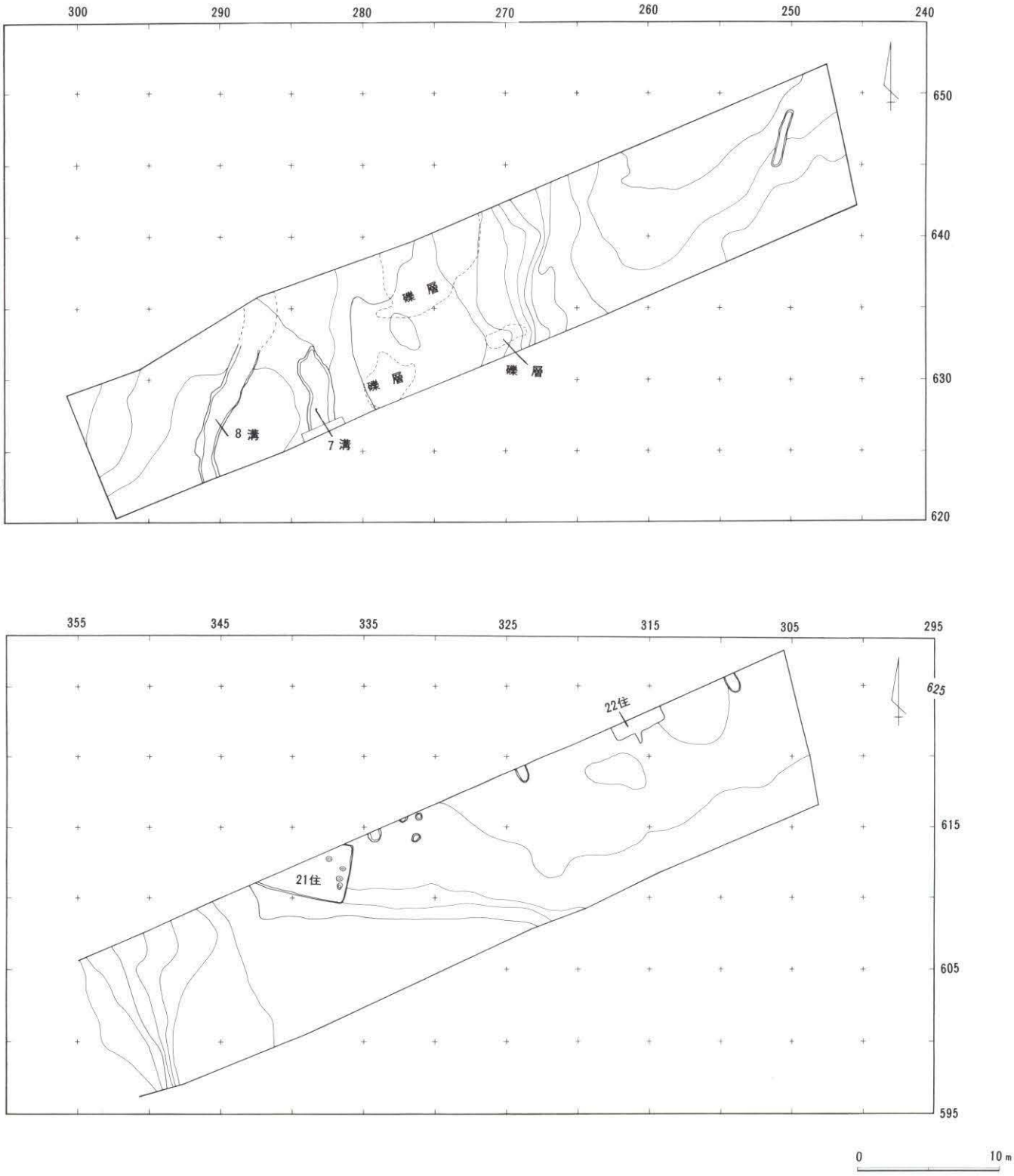
A－6区全景

A－6区土坑集中部分

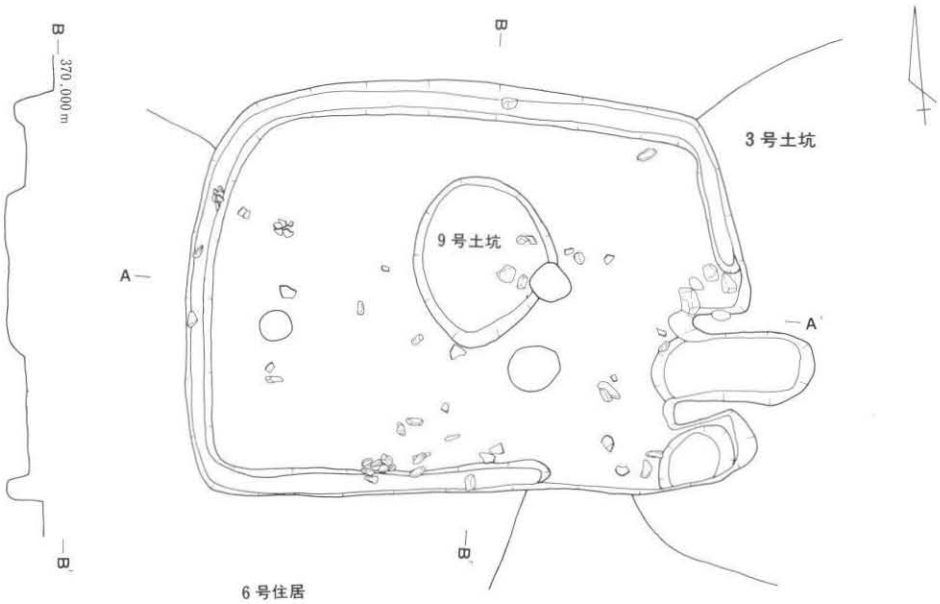
3　検出された遺構と遺物

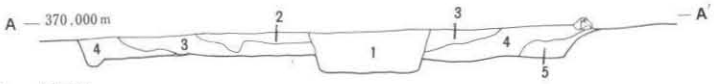
4号住居址

735－130グリッド、A－1区の南側に位置する。6号住居址と3号土坑を切り、9号土坑、数基のピットに切られている。南北3.24m、東西4.40mを測り、平面形はほぼ長方形を呈する。



第6図　中沢遺跡A区全体図(3)





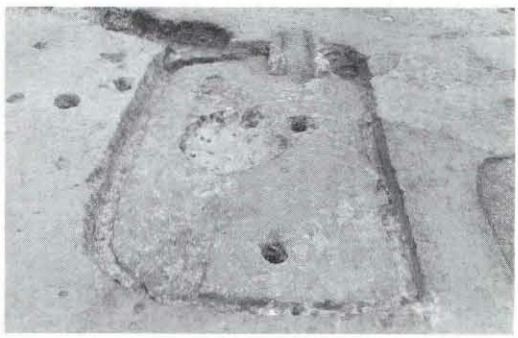
4号住居址　土層説明

第1層　黒褐色土　浅間B軽石を多量に含む。ローム粒、ブロック(小)を含む。9号土坑の覆土である。
第2層　黒褐色土　浅間B軽石を多量に含む。
第3層　黒褐色土　FAを比較的多く含む。ローム粒を少量、ブロック(大)を微量含む。焼土、カーボンを微量含む。砂粒を含む。
第4層　黒褐色土　FAを少量、ローム粒を比較的多く含む。大型ロームブロックを不均一に含む。
第5層　暗褐色土　ローム粒を多量、ブロック(大)を比較的多く含む。焼土、カーボンを少量含む。カマド内の流出部である。

0　2 m

第7図　4号住居址

鉄鏃出土状況



4号住居址全景

上部はかなり削平されており、現存での壁高は16cm程度を測る。住居はローム上層まで掘り込まれ、全面にFAブロックとロームブロックを多量に含む黒色土で貼床が施されている。柱穴は

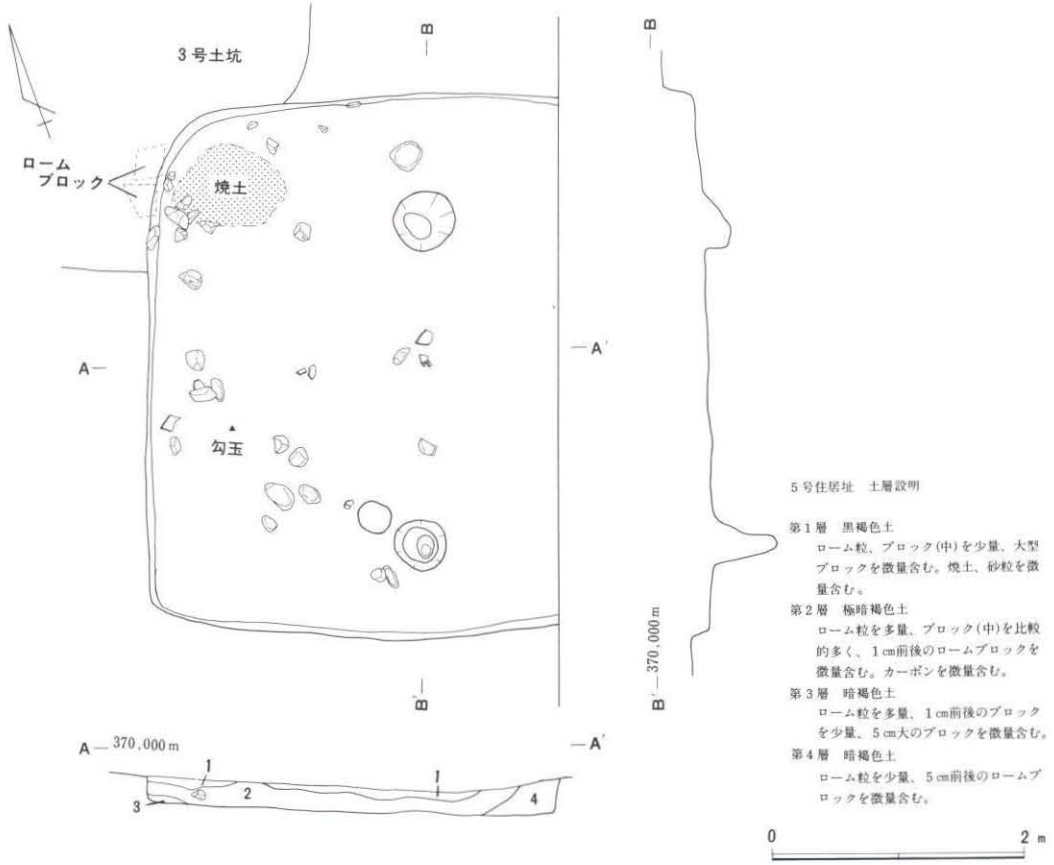
床面では検出されなかった。南東コーナーで貯蔵穴が検出されており、カマドの天井部崩落層が流れ込んでいる。周溝は南東コーナー部を除いて全周し、幅は平均20cmで安定している。カマドは東壁に位置する。両袖は橙灰色粘土で造られ、攪乱は受けているものの残存状態は比較的良好であった。

建物は土師器・須恵器の小破片の他、鉄鏃・石製紡錘車・臼玉が出土している。平安期に属する遺構である。

5号住居址

730－125グリッド、A－1区の南東隅に位置し、3号土坑を切って構築されている。6号土坑との新旧関係は不明である。東側は調査区外にあり、長方形を呈すると思われる。南北4.32mを測る。

壁高は最高で50cmを測り、床はロームを含む黒褐色土で貼られている。北西コーナー付近の床面に焼土の広がりが認められる。柱穴は2本検出されたが、貯蔵穴、周溝、カマドについては検出されなかった。



第8図　5号住居址

勾玉出土状況

5号住居址全景

焼土範囲および壁補強材

北西コーナー付近の壁外に30㎝程度の方形の大型ロームブロック2個が検出された。住居の北東部分は3号土坑の覆土に掘り込まれているため、壁崩れを防ぐための補強材として埋め込まれたものと考えられる。

遺物は土師器・須恵器の小片が少量と硬玉製勾玉1点が出土している。

6号住居址

735－130グリッドに位置する。4・7号住居、5号土坑に切られ、3号土坑を切っている。平面形は正方形を呈し、東西5.80ｍ、南北5.86ｍを測る。

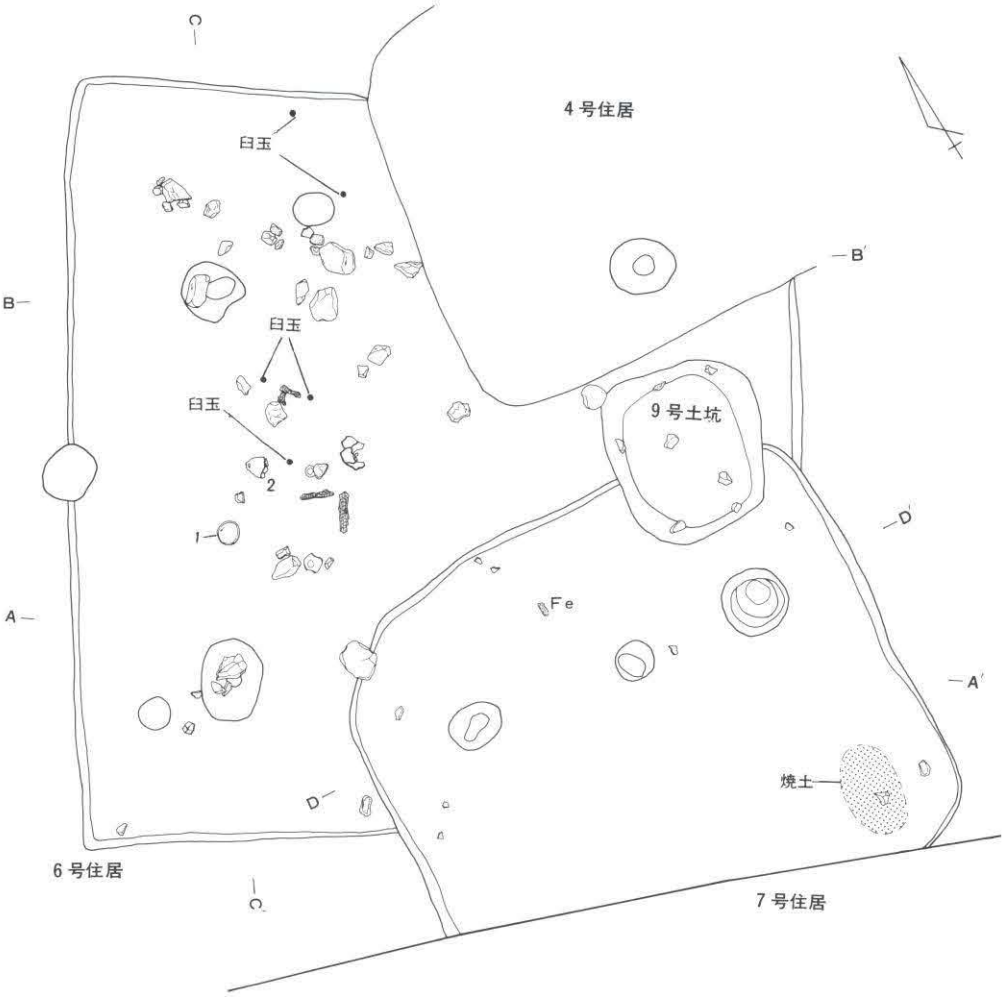
上部をかなり削平されており、現存での壁高は16㎝前後である。住居はロームまで掘り込まれ、ロームブロックを多量に含む黒褐色土で全体に薄い貼床が施されている。床面には細かい焼土とカーボンが均一にかなり広がり、炭化木材が出土していることから火災住居の可能性が考えられる。柱穴は4本検出され、主柱穴と思われる。カマド、貯蔵穴、周溝は検出されなかった。

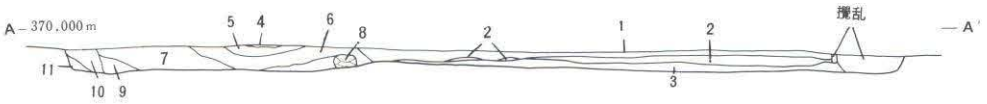
出土遺物にはほぼ完形の坏・吊り下げ型土器、甕の頸部などもあるが、ほとんどは小片である。他には、臼玉5点が出土している。

7号住居址

730－130グリッドに位置し、南西隅は調査区外にある。6号住居を切って構築され、9号土坑に切られている。平面形は正方形を呈し、東西4.16ｍ、南北3.54ｍを測る。

壁高は20㎝程度であり、ＦＡブロックを多量、ロームブロック、焼土を少量含む暗褐色土で貼床が全面に薄く施されているが、やや軟弱である。床面はおおむね平坦である。柱穴は2本検出さ



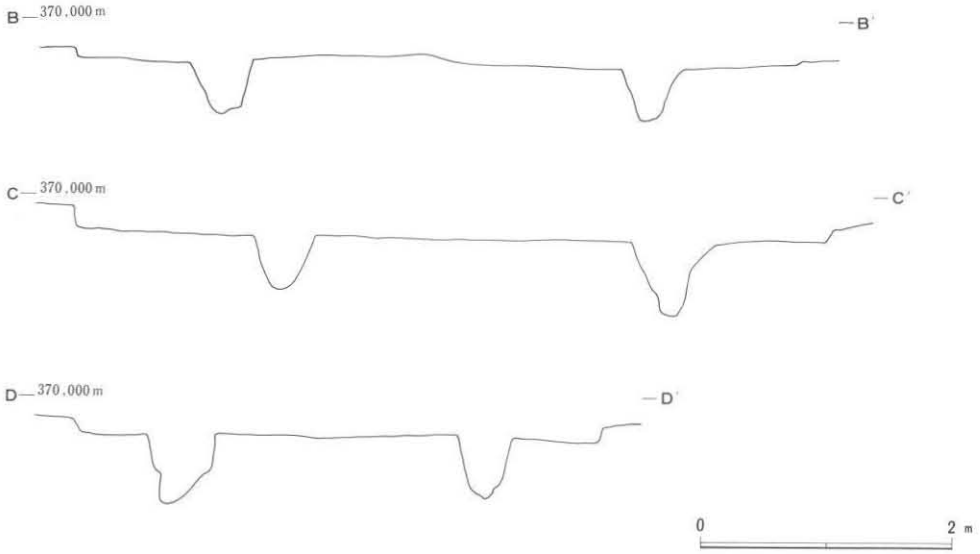


6・7号住居址　土層説明（第1～3層：7住覆土・第4～11層：6住覆土）

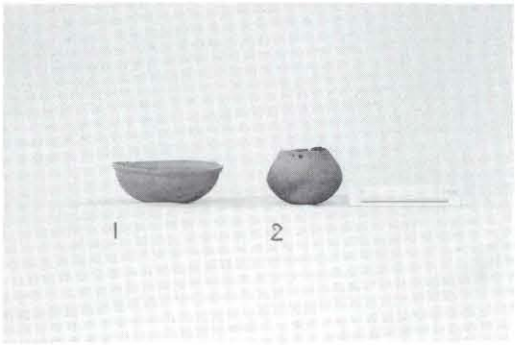
第1層	暗褐色土	FAを含む。ローム粒を比較的多く、ブロック(小)を含む。カーボン、焼土を微量含む。黒色土ブロックを微量含む。
第2層	暗褐色土	FAを含む。ローム粒、ブロック(小)を含む。白色パミスを微量、黒色土ブロックを含む。
第3層	暗褐色土	FAを比較的多く含む。焼土を微量含む。7号住居址の貼床である。
第4層	FA層	
第5層	暗褐色土	FAを含む。ローム粒、ブロック(小)を比較的多く、カーボンを微量含む。
第6層	黒褐色土	ローム粒、ブロック(小)を含む。3～5㎝大のロームブロックを少量含む。カーボンを微量含む。
第7層	暗褐色土	ローム粒、ブロック(小)を非常に多く、ブロック(中・大)を少量含む。
第8層	黄褐色土	第7層と類似するが、ローム粒がさらに多い。
第9層	黒褐色土	ローム粒、ブロック(小)を多量、ブロック(中)を少量含む。
第10層	黒色土	ローム粒、ブロック(小)を含む。ブロック(中・大)、カーボンを微量含む。
第11層	黒褐色土	ローム粒、ブロック(小)を比較的多く含む。

0　2 m

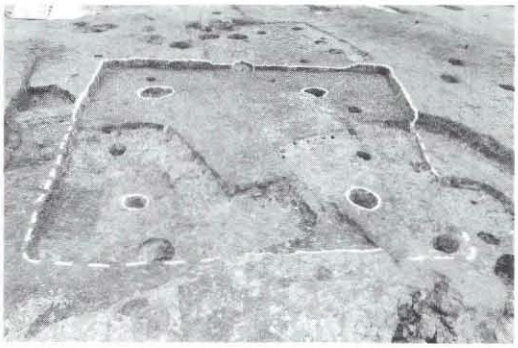
第9図　6・7号住居址(1)



第10図　6・7号住居址(2)



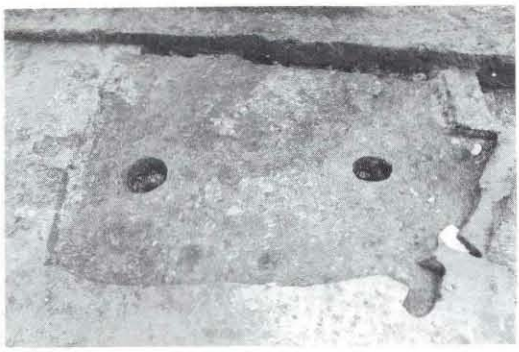
6号住居址出土遺物



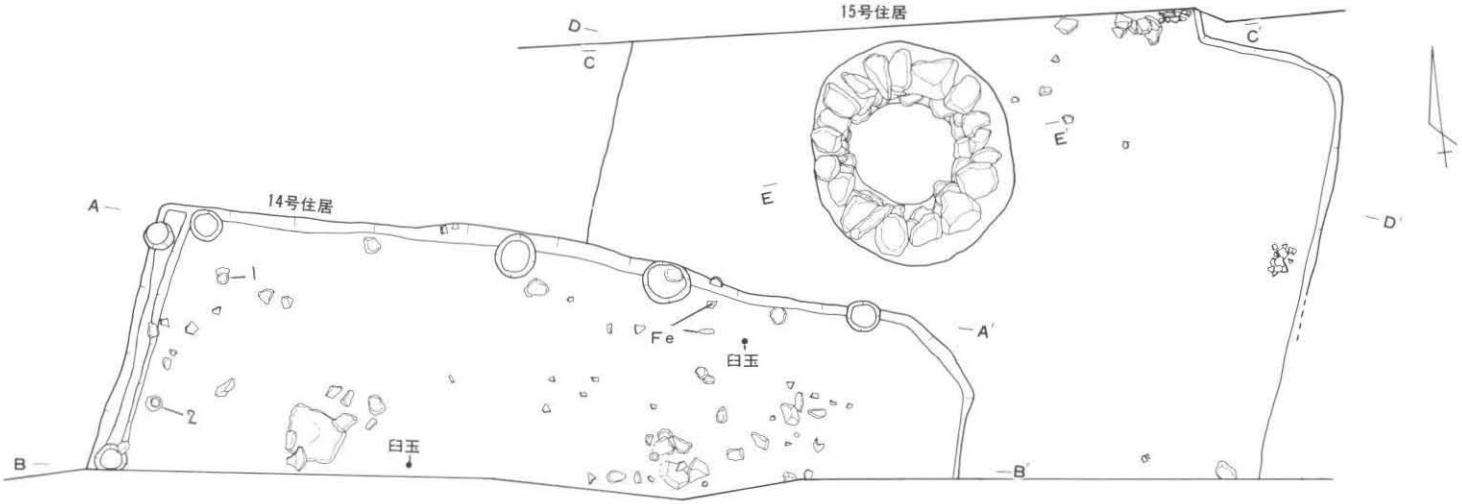
6号住居址全景

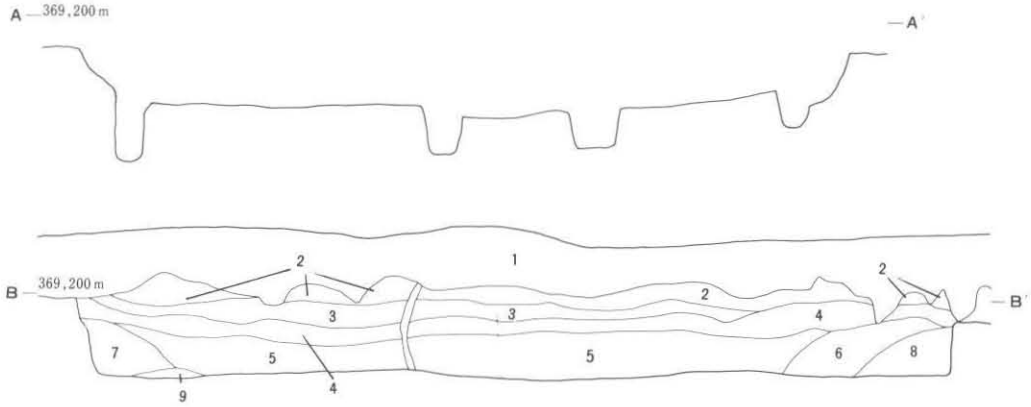
れており、主柱穴と思われる。カマド、周溝、貯蔵穴は検出されなかった。

出土遺物はわずかであり、少量の小土器片の他、刃子1点がある。



7号住居址全景



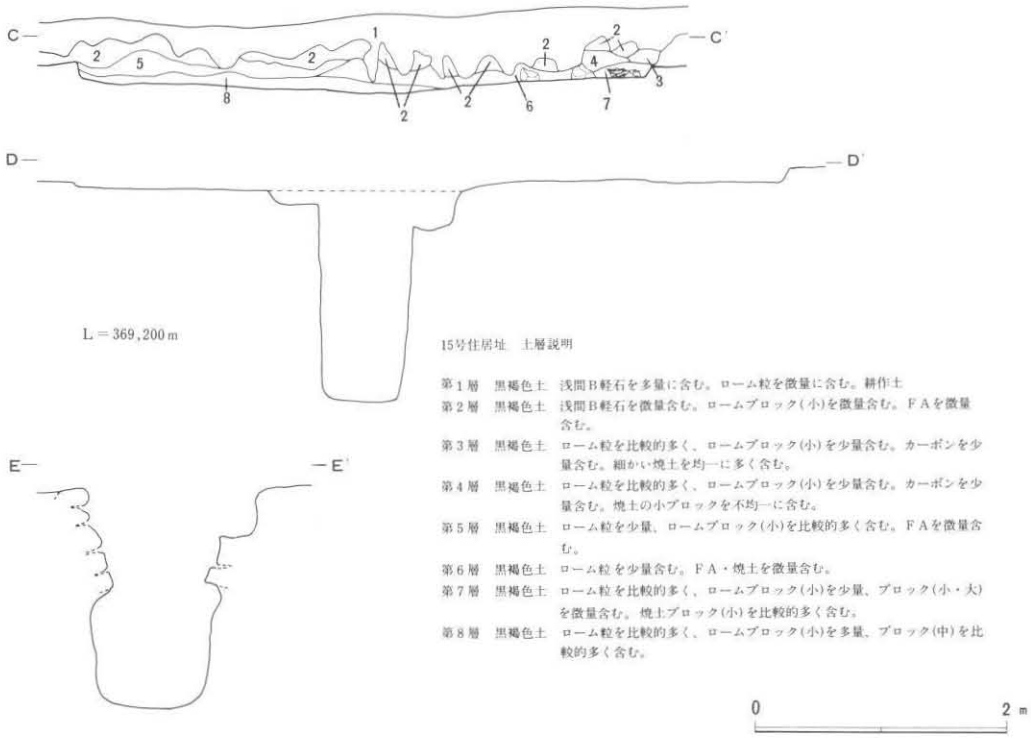


14号住居址　土層説明

第1層	暗褐色土	浅間B軽石を多く含む。耕作土。
第2層	黒褐色土	やや攪乱を受けており、浅間B軽石を含む。ローム粒とブロック(小)、FA、カーボン、焼土、白色パミスを微量含む。
第3層	暗褐色土	ローム粒、ロームブロック(小・中)を微量含む。焼土を少量含む。
第4層	暗褐色土(茶味)	ローム粒、ロームブロック(小)を少量、ブロック(中・大)を微量含む、カーボンを微量含む。焼土を比較的多く含む。白色パミス、黒色土ブロックを微量含む。
第5層	暗褐色土(茶味)	ローム粒、ロームブロック(小)を含む。ロームブロック(中・大)を少量含む。FAを微量含む。カーボンを少量含む。焼土を含む。白色パミスを微量含む。
第6層	暗褐色土(茶味)	ローム粒、ロームブロック(小)を多量、ブロック(中)を少量含む。FA、カーボンを微量含む。焼土を含む。
第7層	暗褐色土(茶味)	ローム粒、ロームブロック(小)を多量、ブロック(中)を少量含む。カーボン、焼土を微量含む。
第8層	黒褐色土	ローム粒、ロームブロック(小)を比較的多く、ブロック(中・大)を微量含む。FA、カーボン、焼土を微量含む。
第9層	黒褐色土	

0　2 m

第11図　14・15号住居址・2号井戸址(1)



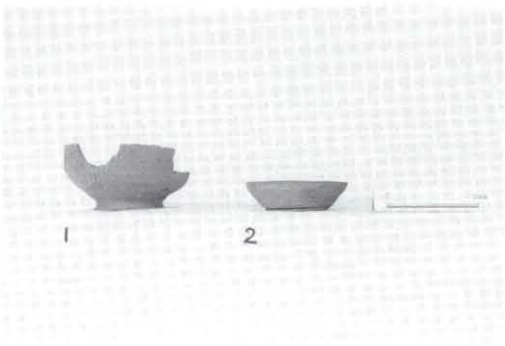
第12図　15号住居址・2号井戸址(2)

14号住居址

665－155グリッドに位置し、南側の大部分は調査区外にあるため、3分の1程度の調査である。東西6.60mを測り、平面形は方形と思われる。

壁高は45～50cmであり、西側にテラス状に傾斜した段差が認められる。床は黒褐色土で貼られており、比較的平坦である。柱穴は6本検出されたが、いずれも壁際に掘り込まれ、それぞれの間隔はまちまちであった。カマド、周溝、貯蔵穴は検出されなかった。

14号住居址遺物出土状況



14号住居址出土遺物

土師器、須恵器が多数出土しているが、ほとんどが小片である。他に銅製品1点、刃子1点、臼玉1点が出土している。

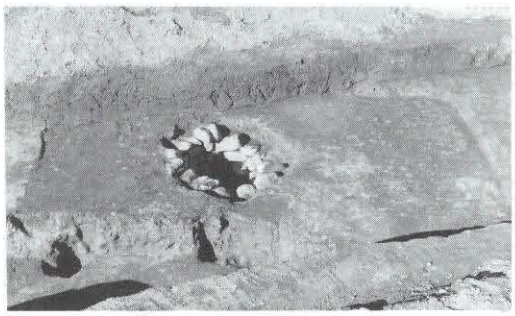
15号住居址

665－150グリッドに位置し、北西コーナー部および南側は調査区外にある。14号住居、2号井戸に切られている。東西5.64mで平面形は方形を呈すると思われる。

上部はかなり削平され、壁高は東壁16cm、西壁4cmと残存状態は不良である。床はロームをわずかに掘り込み、黒褐色土で薄く貼られている。カマドは北壁に位置し、大部分は調査区外にある。柱穴、周溝は検出されなかった。

カマドにあたる調査区壁面から甕の胴部片が重なって検出されている。その他には小土器片が少量出土している。

15号住居址遺物出土状況



15号住居址全景

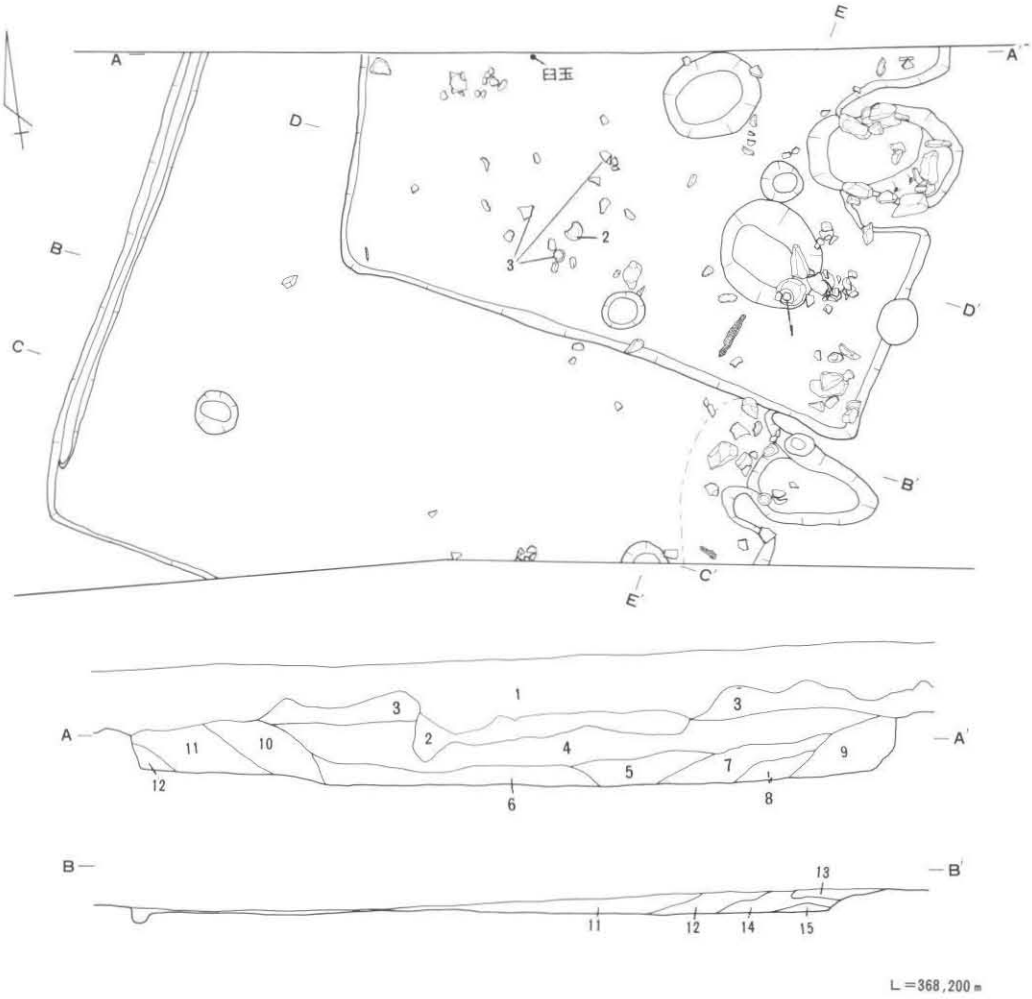
2号井戸址

660－150グリッドに位置し、15号住居址を切っている。平面形は円形で、上半には石組がなされている。30cm×20cm×20cm程度の大きさを中心に、大小の礫を組み上げている。直径は約1m、深さは1.68mであり、上半は緩やかに外傾し、下半はほぼ垂直に立ちあがる。時期は不明であるが、覆土に浅間B軽石が多量に含まれていること、平安期の遺物が少量流れ込んでいることから、比較的新しいものと推測できる。

19号住居址

595－180グリッドに位置し、北側の約2分の1は調査区外にある。20号住居を切って構築されている。平面形は方形を呈していると思われ、東西4.56mを測る。

上部は削平され、残存状態はあまり良くない。壁高はカマド寄りの深い部分で22cm、浅い部分で8cmを測る。比較的硬質の貼床が施されていたと思われるが、部分的にしか残っていない。柱穴は2本検出されており、そのうちの1本は主柱穴を思われるが、もう1本については住居北半



19・20号住居址　土層説明

第1層　暗褐色土　浅間B軽石を多量に含む。耕作土。

第2層　暗褐色土　浅間B軽石を少量含む。FAを少量含む。ローム粒、ブロック(小)を少量含む。

第3層　暗褐色土　FAを少量含む。ローム粒、ブロック(小)を微量含む。カーボン、焼土、白色パミス、浅間B軽石を微量含む。

第4層　暗褐色土　FA層、ブロック(小)を含む。ローム粒、、ロームブロック(小)を少量含む。焼土を少量、ブロック(中)を微量、カーボンを微量含む。橙灰色粘土ブロックを微量含む。

第5層　暗褐色土　FAを少量含む。ローム粒子、ブロック(小)を含む。カーボンを少量含む。大型の橙灰色粘土ブロック、焼土を含む。1～3cmの黒色土ブロックを微量含む。

第6層　暗褐色土　FAを微量含む。ローム粒、ブロック(小)を含む。ロームブロック(中・大)を微量含む。粘土を微量含む。カーボンを微量含む。

第7層　暗褐色土　FAを含む。ローム粒、ブロック(小)を含む。ロームブロック(中)を微量含む。焼土を少量含む。黒色土ブロック(大)、灰白色粘土を微量含む。

第8層　暗褐色土（茶味）　FAを少量含む。ローム粒、ブロック(小)を少量含む。焼土を少量含む。カーボンを微量含む。大型の橙灰色粘土ブロックを少量含む。

第9層　暗褐色土（茶味）　FAを少量含む。ブロック(小)を比較的多く、ブロック(中・大)を微量含む。焼土を含む。カーボンを微量含む。

第10層　暗褐色土（黄味）　FA粒、ブロック(小)を多量、ブロック(中・大)を微量含む。ローム粒、ブロック(小)を含む。カーボン、白色パミスを微量含む。

第11層　黒褐色土　FAを多量に含む。ローム粒、ブロックを比較的多く含む。ブロック(中・大)を微量含む。

第12層　黒褐色土　FAを多量に含む。ローム粒、ブロック(小・中・大)を微量含む。

第13層　粘土まじりのローム
焼土化した部分がみられる。カマドの天井部崩落層である。

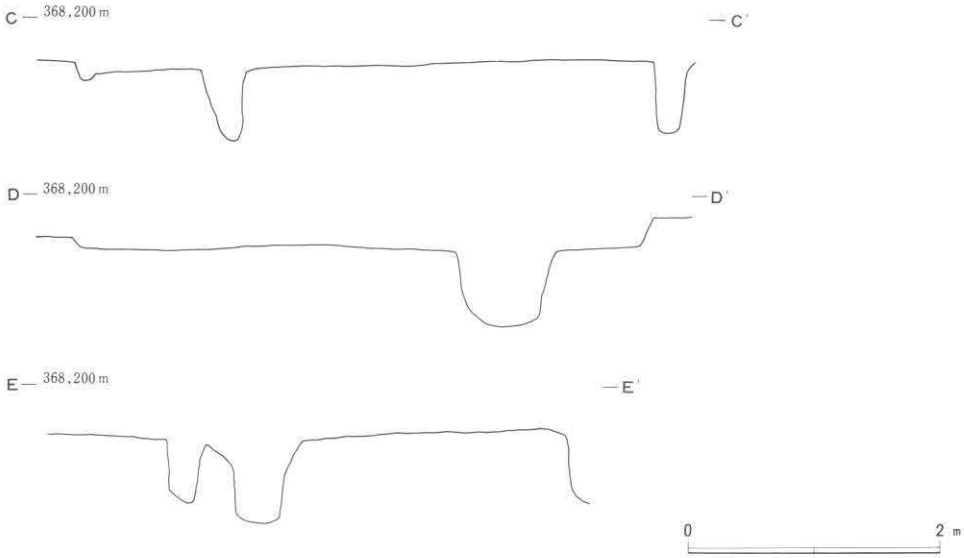
第14層　黒褐色土　ローム粒を多量、ブロック(小)、焼土を少量含む。灰混じりであり、カマド内の流出部である。

第15層　黒褐色土　FAを比較的多く、ロームブロック(小)を少量含む。

0　2 m

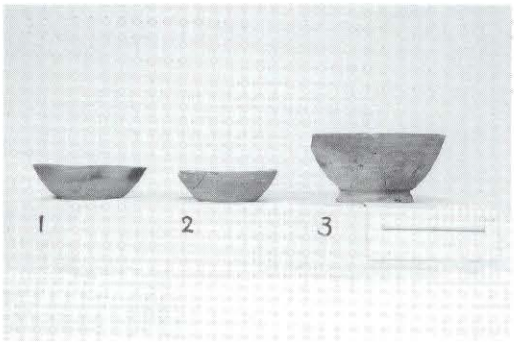
第13図　19・20号住居址(1)

を調査できなかったために判断できない。カマドは東壁にあり、袖石等カマド用材を思われる礫がカマド壁および周辺にみられる。周溝、貯蔵穴は検出されなかった。



第14図　19・20号住居址(2)

19号住居址遺物出土状況



19号住居址出土遺物

19号住居址全景

遺物は土師器・須恵器の小片が床面全体に散らばるように認められるが、柱穴付近にやや多く出土している。

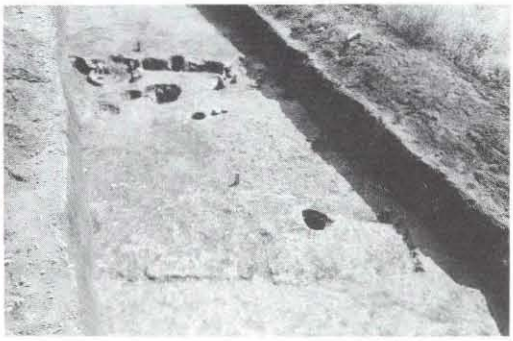
20号住居址

590－180グリッドに位置し、19号住居に切られている。北側と南東コーナー部分は調査区外にあり、東西5.86ｍを測る。平面形は正方形を呈すると予測される。

壁高は東壁８㎝、西壁16㎝であり、19号住居と同様に残存状態は不良である。床は、ロームブロックを多量に含む黒褐色土で貼っている。カマドは東壁の南寄りに位置し、右袖の一部を19号住居に切られている。右袖の内側に袖石を設置したと思われるピットが確認された。カマドの前面に焼土の広がりが認められており、内部堆積物の流出と考えられる。柱穴は３本検出され、いずれも主柱穴と判断される。周溝は東壁部分に確認されている。貯蔵穴は検出されなかった。

遺物は土師器坏、甕の小片が少量出土している。

20号住居址出土状況

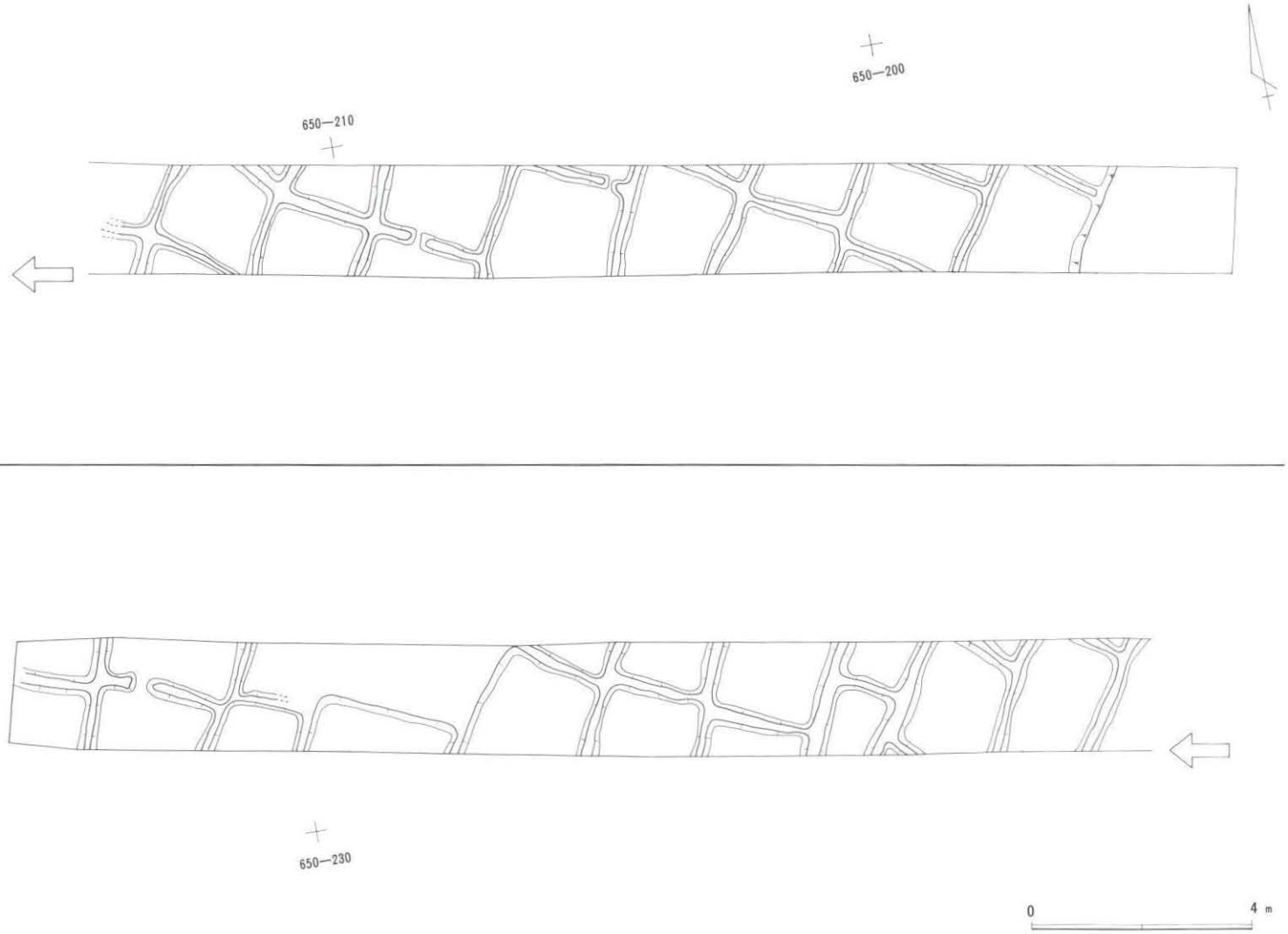


19・20号住居址全景

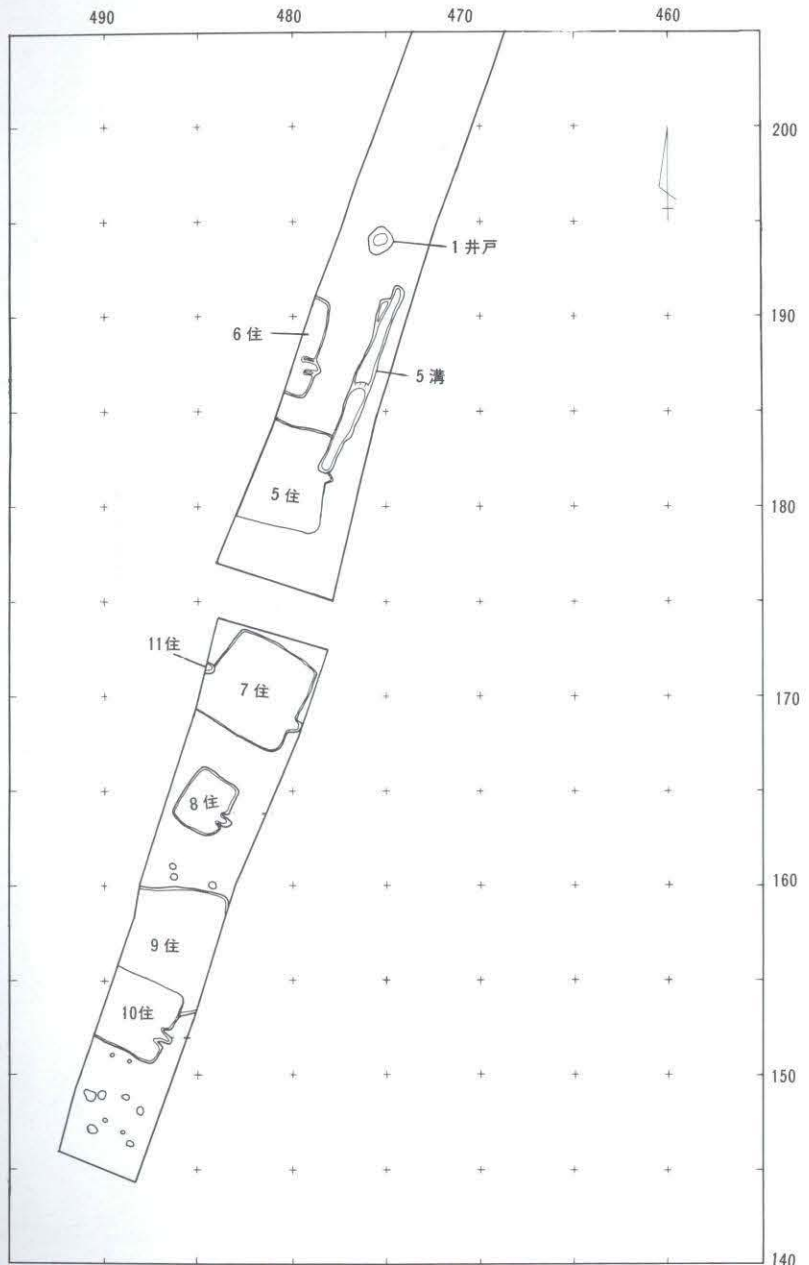
古墳時代水田址

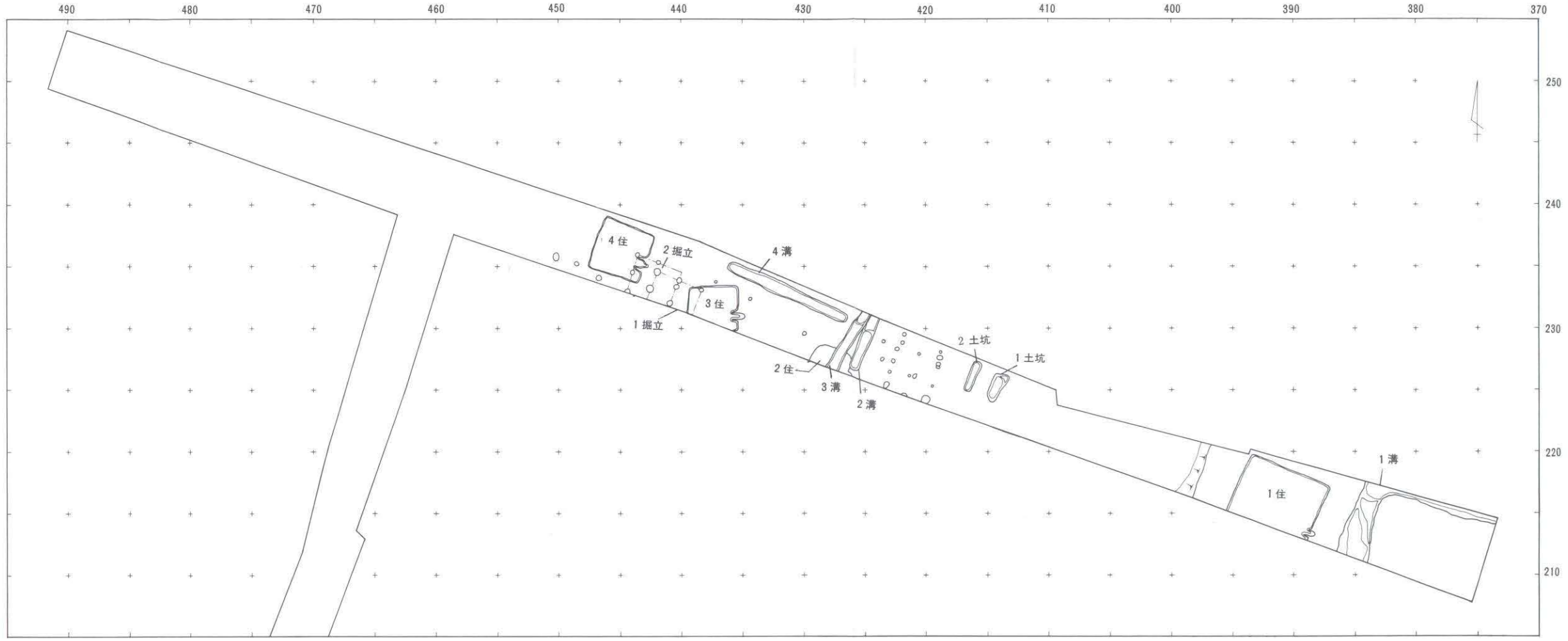
Ａ－４区からは、部分的に確認されたものも含めて40面の小区画水田が検出された。これは、前年度の七日市遺跡Ａ区の調査で確認された水田と同様、Ｈｒ－ＦＡ層直下に認められたものであるが、残存状態は前年度のものほど良くなかった。

区画が完全に判るものは少ないが、２×1.5ｍ前後に細分されていたものと予測される。畦は平均して下幅10～25㎝、高さ５㎝程度であった。水口は東西方向の畦の２カ所で確認されている。水田の耕作土は粘性のある灰色土で、水田面には凹凸が観察される。しかし、攪乱を受けている部分が多いうえ、調査区が何度も水没してしまったこともあり、足跡と判断できる明確なものは確認されなかった。

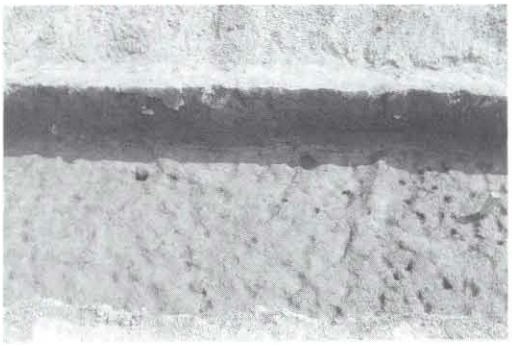


第15図　A－4区水田址


490
480
470
460
200
190
180
170
160
150
140
1井戸
6住
5溝
5住
11住
7住
8住
9住
10住


490
480
470
460
450
440
430
420
410
400
390
380
370
250
240
230
220
210
4住
2掘立
4溝
3住
1掘立
2住
3溝
2溝
2土坑
1土坑
1住
1溝

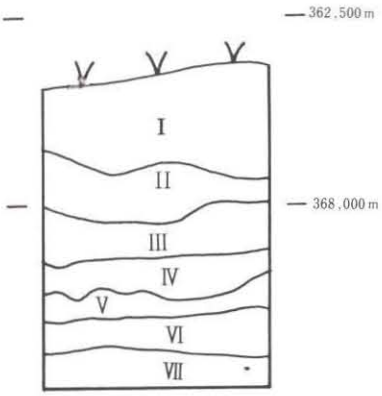
0 10m



A－4区水田址全景

V　七日市遺跡B区

1　基本土層



第17図　七日市遺跡B区基本土層

I	黒褐色土	耕作土
II	黒褐色土	浅間B軽石を少量、FA、ローム粒を微量含む。
III	黒褐色土	FA、ローム粒を微量含む。
IV	暗褐色土	FAを少量含む。
V	FA層	
VI	極暗褐色土	FAが多量に混入する。
VII	黒色土	FAを微量、ローム粒を少量含む。
VIII	黒褐色土	ローム粒を少量含む。

2　調査の概要

七日市遺跡Ｂ区は、前年度に調査した同遺跡Ａ区とは道路をはさんで南東に位置する。調査区はＴ字型に設定されているが、遺構は東側と南側で確認されている。遺構数は、住居址10軒、堀立柱式建物２軒、井戸１基、土坑２基、溝状遺構５条、ピット37基であった。

時代別では、古墳時代以前の溝状遺構１条(１溝)、古墳時代の住居址５軒（１・３・５・６・９住)、平安時代の住居址５軒（２・４・７・８・10住)、溝状遺構４条（２～４溝)、平安時代以降の井戸１基である。時代不明の遺構は、土坑２基、掘立柱式建物２棟、すべてのピットである。

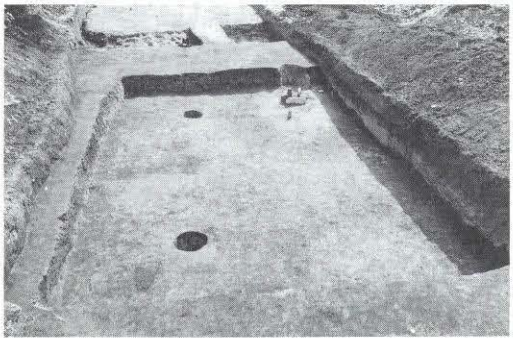
3　検出された遺構と遺物

１号住居址

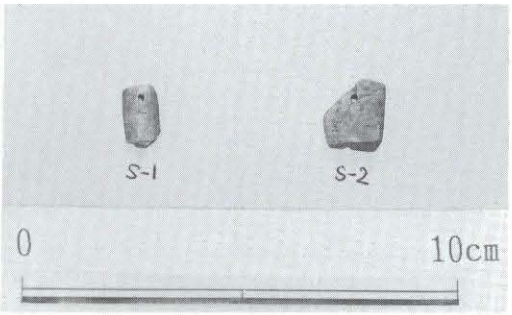
210－390グリッドに位置し、南側約４分の１が調査区外にある。東西7.08ｍを測り、平面形は長方形を呈すると思われる。

残存状態は良好で、壁高は50cm前後である。ローム層まで掘り込まれ、床は全面にロームブロックを比較的多く含む黒褐色土で貼られている。カマドは東壁の南寄りに位置している。攪乱を受けたために右袖は失われ、左袖は下半が残存しており、袖の付根部分に土師器甕口縁部片が埋め込まれていた。カマド前面に天井石・袖石と思われる礫が出土している。また、付近には焼土

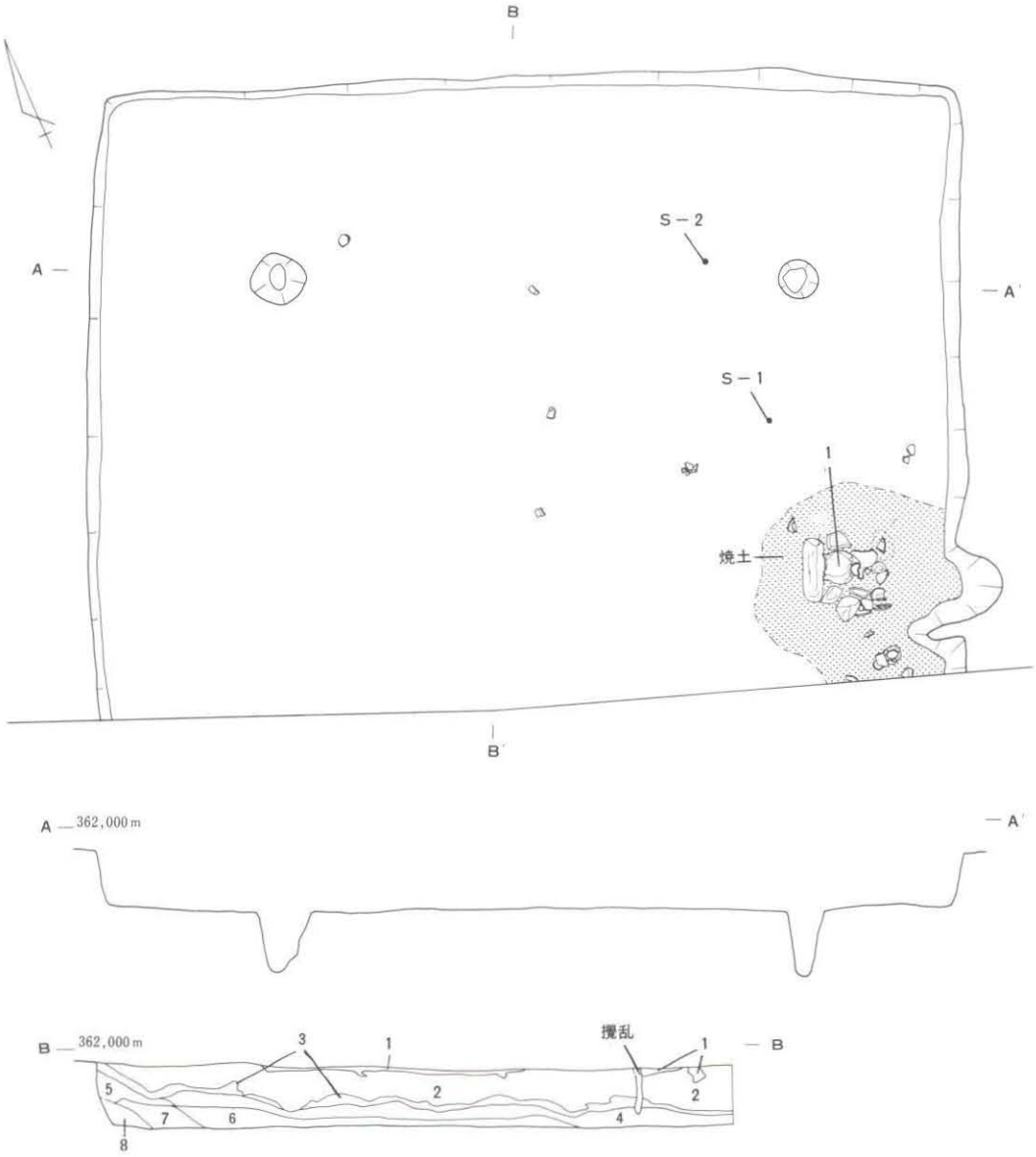
１号住居址遺物出土状況



１号住居址全景



１号住居址出土遺物



1号住居址　土層説明

第1層　暗褐色土　ＦＡを多量に含む。
第2層　ＦＡ層
第3層　黒褐色土　ＦＡを含む。ロームブロック(小)、カーボン、焼土を微量含む。
第4層　黒色土　ローム粒、ブロック(小)を少量含む。カーボンを微量含む。
第5層　黒色土　ローム粒、ブロック(小)を少量含む。カーボンを微量含む。暗褐色土が混入する。
第6層　暗褐色土　ローム粒、ブロック(小)を比較的多く、ブロック(中)を少量含む。焼土を少量含む。
第7層　黒褐色土　ロームと黒色土の混層。
第8層　黒褐色土　ローム粒、ブロック(小)を多量に含む。暗褐色土が混入する。

0　2 m

第18図　1号住居址

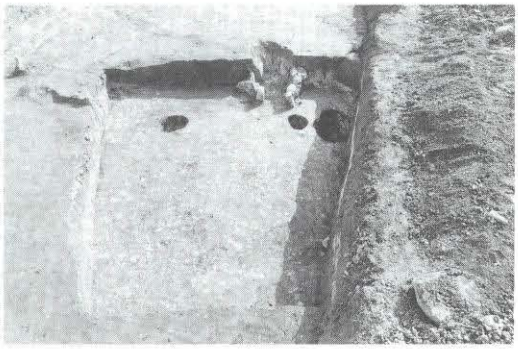
が堆積しており、内部堆積物あるいは天井部崩落層と判断される。柱穴は2本検出されており、主柱穴と判断される。貯蔵穴は北半分が確認され、やはりカマド内からの流出物が堆積していた。

遺物はカマド付近に集中し、完形の甕1点の他に小土師器片が少量出土している。また、滑石製装飾品が2点出土した。

3号住居址

230－435グリッドに位置し、南西コーナー部分は調査区外にある。東西4.10m、南北3.85mを測り、平面形はやや歪んだ正方形を呈する。

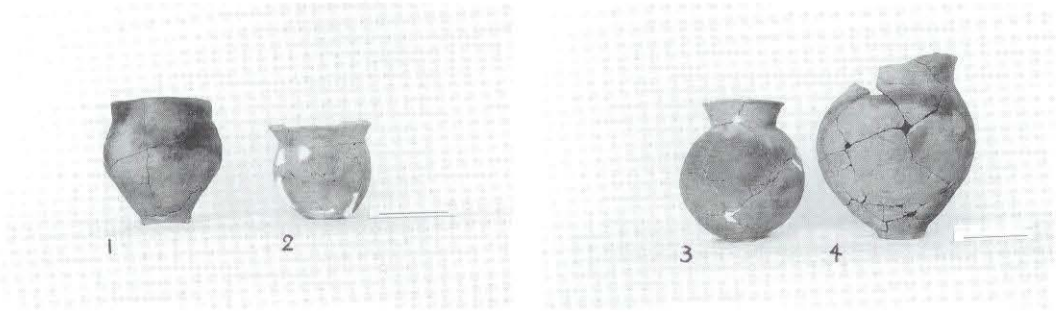
壁高は30～40cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床はローム層まで掘り込まれ、ロームブロックを比較的多く含む黒褐色土で貼床が施されている。床面では炭化木材や細かい炭火物が多量に観察され、焼土は全面に広がっている。また、床面直上に出土している25～30cm大の礫の下には植物の繊維と思われる炭化物が観察される。カマドは東壁のやや南寄りに位置し、袖石が残っている。袖は小



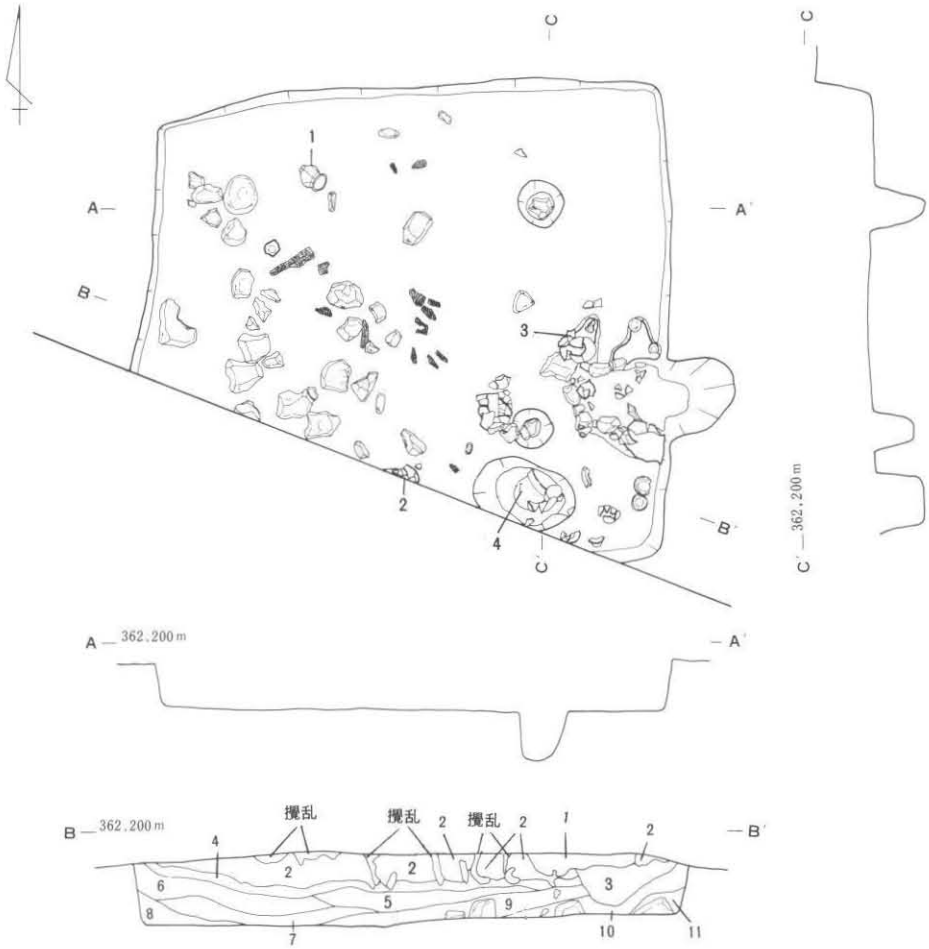
3号住居址全景

3号住居址出土遺物

3号住居址遺物出土状況



3号住居址出土遺物



3号住居址　土層説明

第1層	黒褐色土	浅間B軽石を多量に含む。FAブロックを多量に含む
第2層	FA層	
第3層	黒褐色土	FAを比較的多く含む。焼土を微量含む。
第4層	黒褐色土	FAを多量に含む。ロームブロック(小)を微量含む。
第5層	黒褐色土	FAを微量含む。ローム粒を少量、ブロック(小・中)・大型ブロックを微量含む。黒色土ブロックを不均一に少量含む。
第6層	黒色土	ローム粒を多量に、ブロック(小)を比較的多く含む。焼土を比較的多く含む。カーボンを微量含む。カマドの天井部崩落層の影響を受けている。
第7層	黒褐色土	ロームブロック(小)を多量に、ブロック(中)を少量含む。焼土ブロックカーボンを比較的多く含む。カマドの天井部崩落層の一部と思われる。
第8層	黒褐色土	ロームブロック(小)を多量、ブロック(中)を少量含む。焼土ブロックを少量含む。カーボンを比較的多く含む。カマドの天井部崩落層の一部と思われる。
第9層	黒褐色土	ローム粒を少量、ロームブロック(小)を微量含む。
第10層	黒色土	ローム粒を微量、ロームブロック(小)を少量、大型のブロックを微量含む。
第11層	黒色土	ロームブロック(小)を多量、ブロック(中・大)を少量含む。

0　2 m

第19図　3号住居址

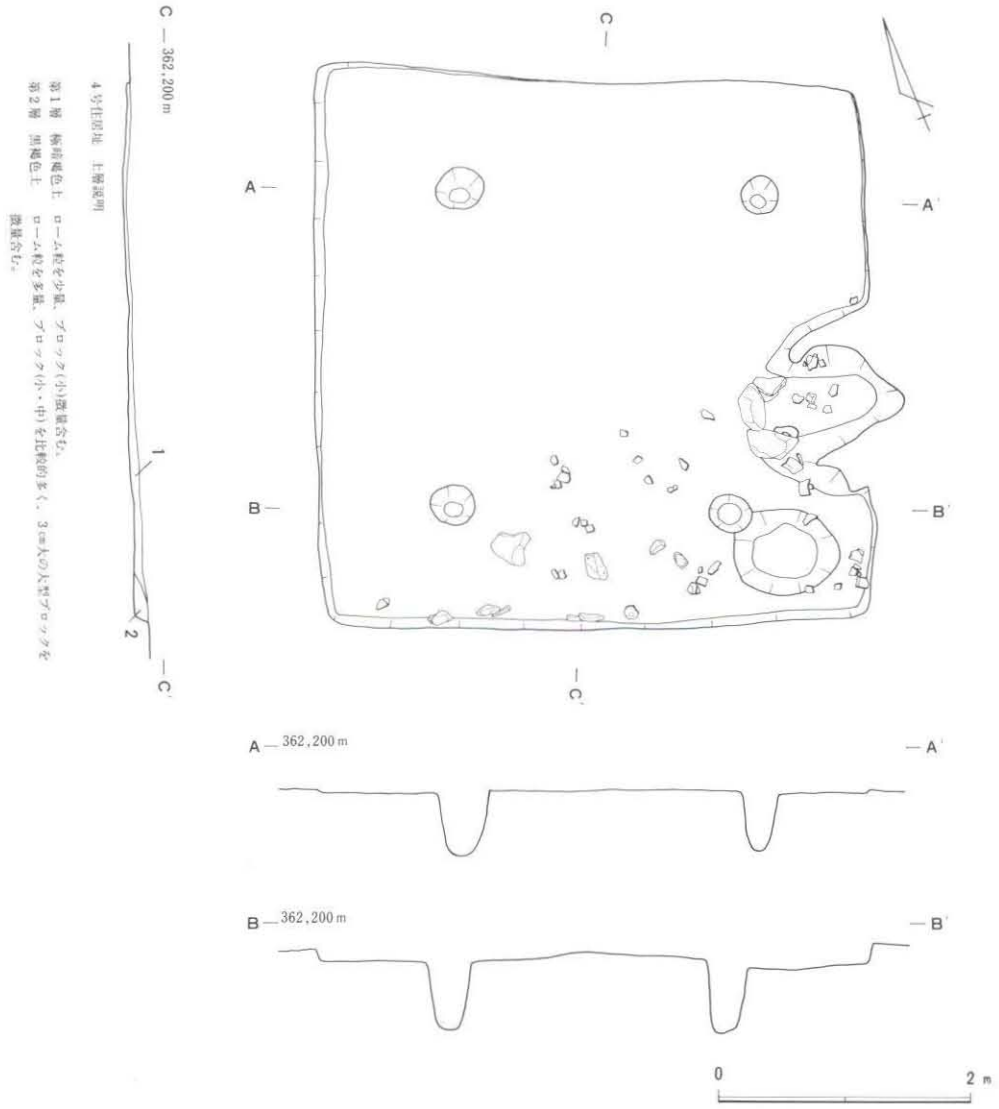
礫や土器片を含む良質の灰褐色粘土で造られている。柱穴は2本が検出され、主柱穴と判断される。貯蔵穴は南東コーナー付近に認められ、甕1個体が出土した。

遺物はカマド付近から多く出土している。完形品は甕4点、坏5点が出土している。

4号住居址

235－445グリッドに位置し、規模は東西4.38m、南北4.34mを測り、平面形は正方形を呈する。

削平されて残存状態が非常に悪い。北側になるにしたがって状態が悪くなり、壁高は南壁が最大で20cm、北壁にいたっては4cmとなる。床はロームブロックを比較的多く含む黒褐色土で貼床が施されているが、部分的にはすでに削平されてしまっている。カマドは東壁の南寄りにあり、



第20図　4号住居址

4号住居址遺物出土状況

4号住居址全景

前面にはカマド用材であろう40cm前後の礫が検出されている。貯蔵穴は南東コーナーに検出されており、平面形は楕円形で深さは40cmを測る。柱穴は4本確認され、主柱穴であると判断される。

遺物は少量で、大部分が小土師器片である。残存状態の影響もあって南側にかたよって出土している。

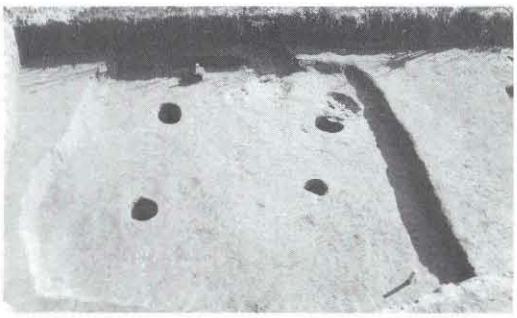
7号住居址

170－480グリッドに位置し、11号住居址のカマドに切られている。南西端とカマドの先端部は調査区外にあるが、東西5.22m、南北5.20mを測り、平面形は正方形を呈している。

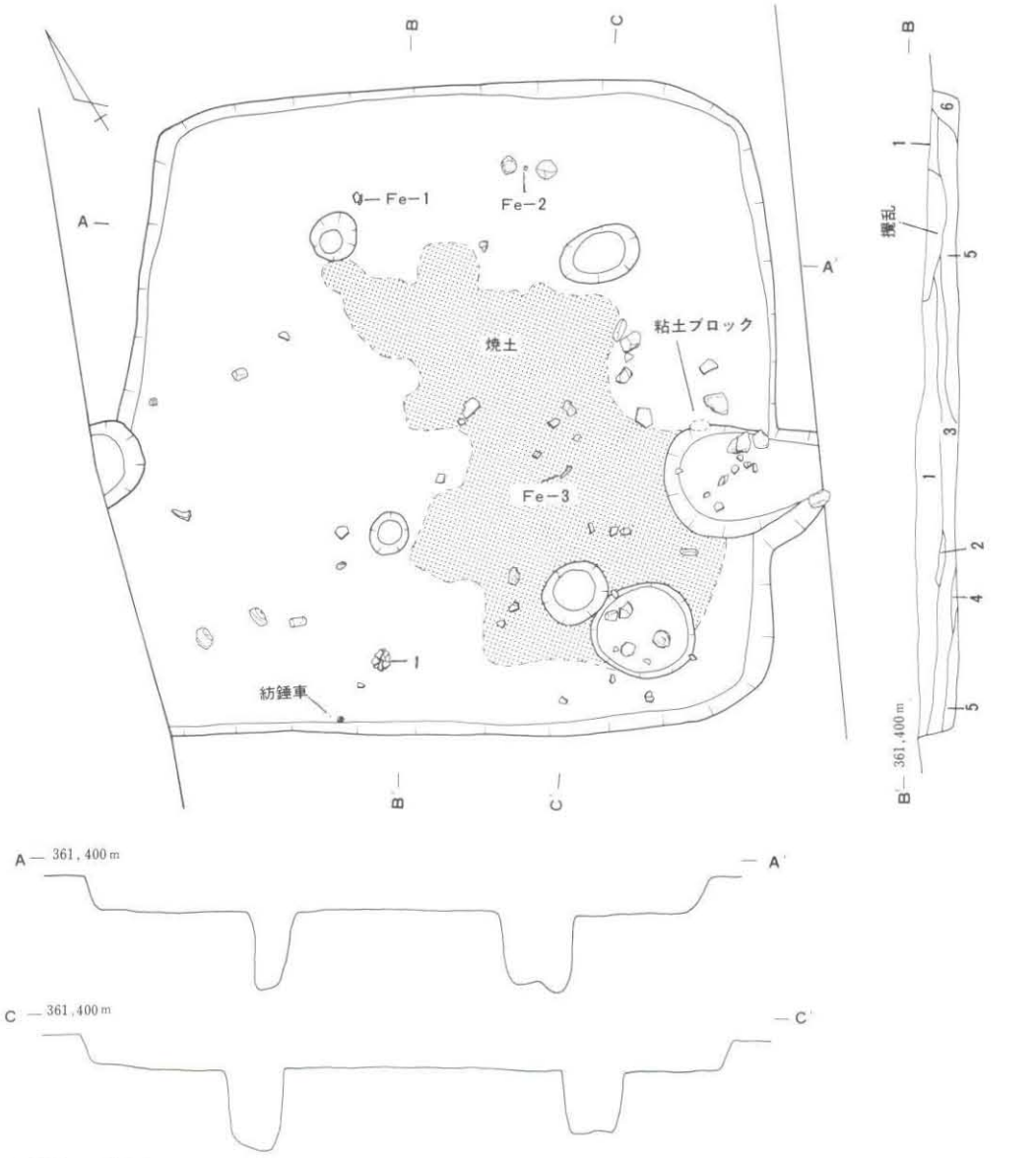
上部は削平され、壁高は13cm前後である。床はＦＡブロックとロームブロックを含む暗褐色土で貼られているが、やや軟弱である。床面の中央部から南東部にかけて焼土とカーボンが広がっている。焼土は東壁にあるカマド付近でもっとも厚く堆積している。焼土範囲が広いことから、火災にあった可能性が考えられる。カマドは東壁に位置する。付近に用材と思われる礫と粘土ブロックは検出されている。柱穴は4本が検出され、そのうち3本が主柱穴と思われる。貯蔵穴は南東コーナー付近に認められるが、10cm程度の浅いものであった。

出土遺物は、鉄製品3点、石製紡錘車1点、須恵器坏のほかには少量の小土器片である。

7号住居址遺物出土状況



7号住居址全景



7号住居址　土層説明

第1層 極暗褐色土　ローム粒を少量、ロームブロック(小)を微量含む。FAブロックを少量含む。カーボンを微量含む。焼土ブロックを少量含む。

第2層　暗褐色土・焼土
暗褐色土と焼土が薄く交互に堆積する。カーボンを多量に含む。焼土ブロックを比較的多く含む。カマドの天井部崩落層と考えられる。

第3層　黒褐色土　FAを少量含む。焼土を微量含む。カーボン、ローム粒を少量含む。

第4層　黒褐色土・黄褐色粘土小ブロック・焼土
各層が1～2mm程度に交互に堆積し、いずれもカーボンを少量、ロームブロック(小)を微量含む。カマド内の流出部、あるいは住居火災時の堆積と考えられる。

第5層　黒褐色土　ローム粒、ブロック(小)を微量含む。FA、焼土を微量含む。

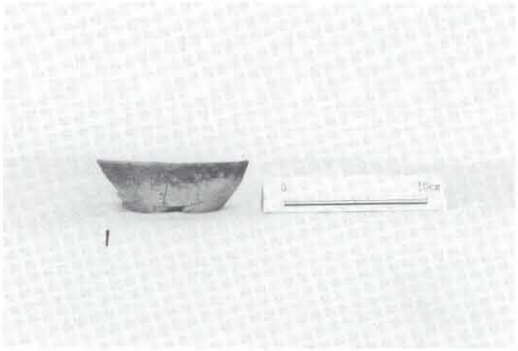
第6層　黒色土　ローム粒、FA、焼土を微量含む。

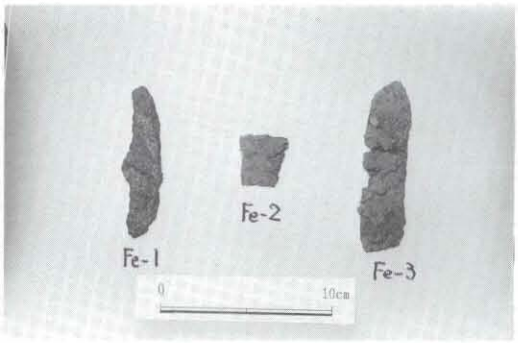
0　2m

第21図　7・11号住居址

11号住居址

カマドのみ検出された住居址である。カマドの先端部が7号住居址の西壁を切っており、調査



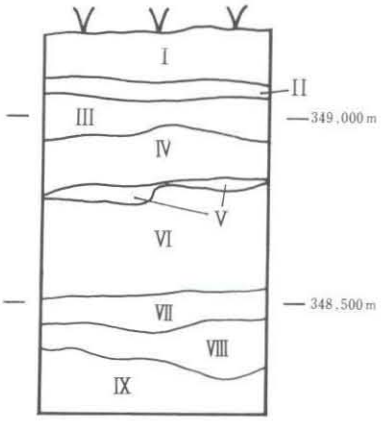


7号住居址出土遺物

区内に確認できるのはカマドの一部分でしかない。カマドの覆土の堆積状態からのみ判断すると残存状態は比較的良好ではないかと推測される。遺物に出土せず、時期は不明である。

Ⅵ　小塚遺跡

1　基本土層



第22図　小塚遺跡基本土層

Ⅰ　黒褐色土　現在の水田面

Ⅱ　酸化層

Ⅲ　褐色土　浅間Ｂ軽石、浅間・粕川テフラを多量、白色パミスを比較的多く含む。

Ⅳ　火山灰層　浅間・粕川テフラと思われる。

Ⅴ　鈍い黄褐色火山灰層　浅間Ｂ軽石と思われる。

Ⅵ　黒褐色土　ＦＡを比較的多く、白色パミスを含む。

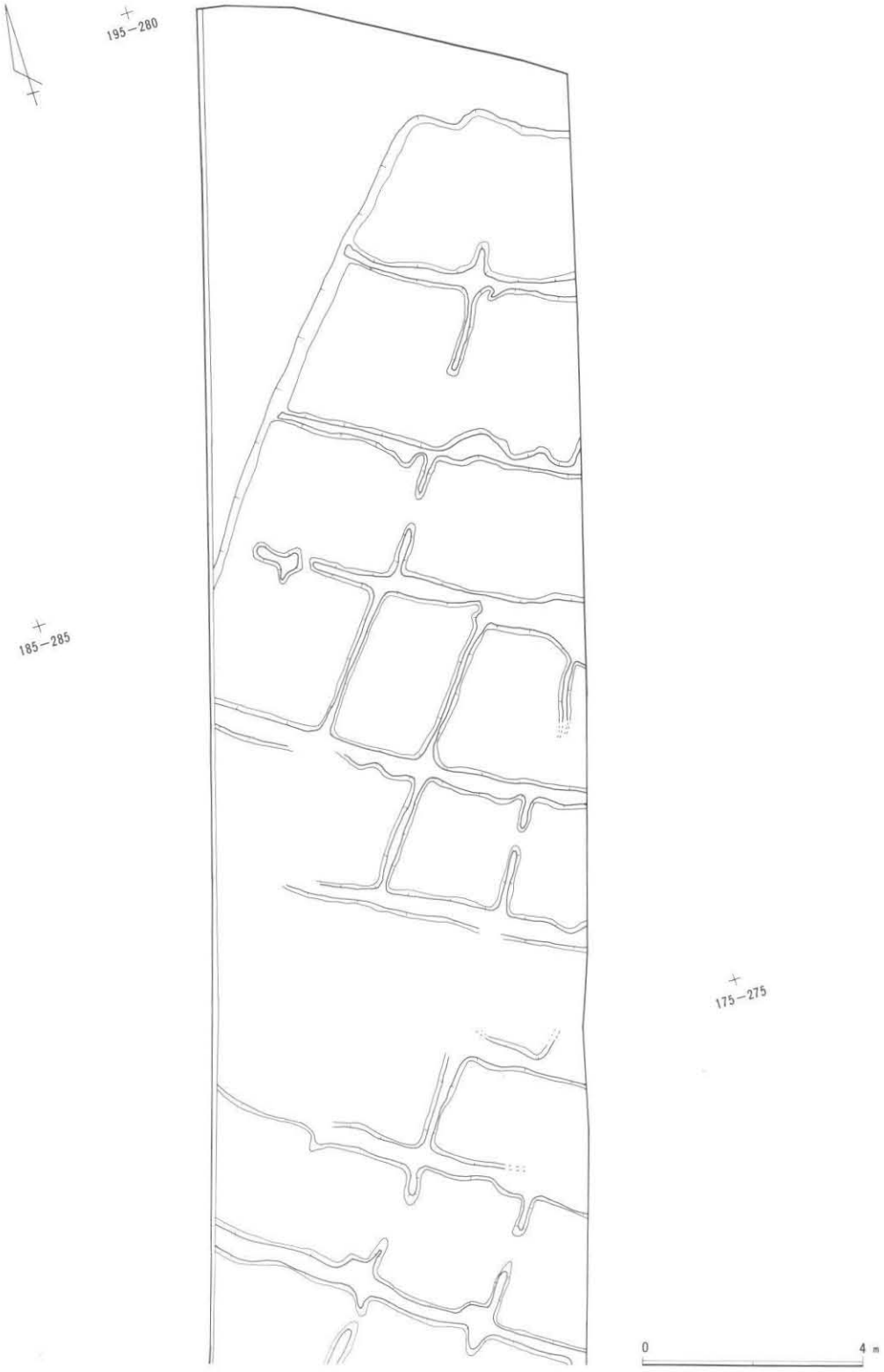
Ⅶ　暗褐色土　ＦＡを不均一に含む。白色パミスを微量含む。

Ⅷ　ＦＡ層

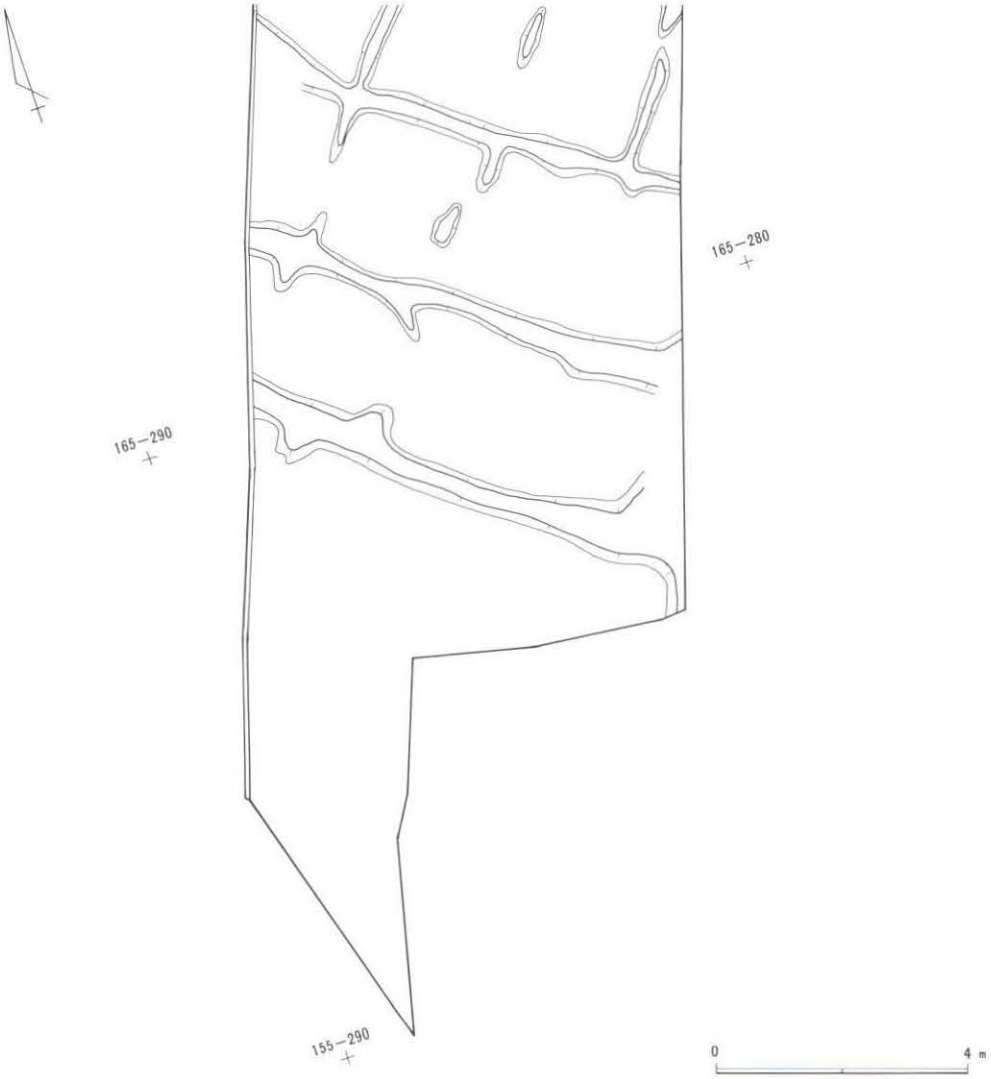
Ⅸ　黒色土　きめ細かく、硬い粘土質の土である。

2　調査の概要

小塚遺跡で検出された遺構はＦＡ直下の水田址であった。調査区は実際のところわずかに傾斜



第23図　小塚遺跡水田址（１）



第24図　小塚遺跡水田址(2)

してはいるが、感覚的にはほとんど平坦である。試掘調査によって遺構が確認されたトレンチを拡張して調査を行ったわけであるが、調査区は幅7ｍ程のトレンチであり、水田は調査区外の南東方向にさらに続いているとみられる。水田址の北東の一部分が検出されたことになり、遺跡全体のほんの一部にすぎない。

遺構の残存状態はあまり良好とはいえない。それに加え、調査中のほとんど毎日霜が降りたために遺構はいっそう状態が悪くなってしまった。区画が明確にわかるものは15面である。畦の一部が不明瞭になっているもの、部分的に検出されたものを含めると28面が確認される。推定では約40面が検出されていると考える。

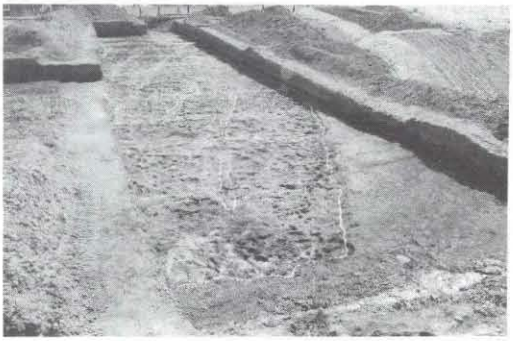
3　検出された遺構と遺物

水田は幅20～40cmの畦で区画された小区画水田である。中沢遺跡Ａ区や七日市遺跡Ｂ区で検出されたものと同様、10cm前後の厚さで堆積したＦＡ層の直下に作られている。本調査で確認されたのは推定40面であるが、そのうちの大部分は畦が途中で途切れがちになるなど、不明確なものが多い。区画の形状は正方形に近いものもあるが、比較的長方形が多くみられた。大きいもので2.8m×2.4m、小さいものは2.0m×1.8mを測る。

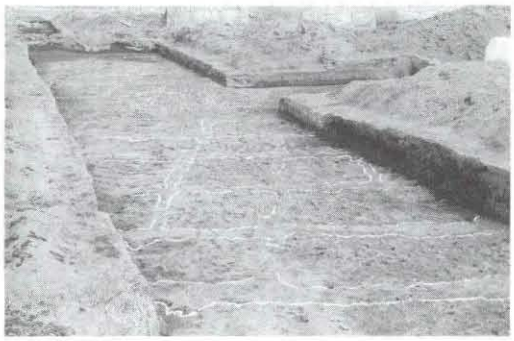
畦は、下幅が最大48cm、平均30～35cmであるが、残存状態が悪いため、かなり不明瞭になっている。検出状況を比較すると、東西方向の畦のほうが南北方向のものよりも残存状態が良い。畦の幅も若干広くなっている。水口であると確認できるものは１カ所のみであった。水田の耕作土は非常にきめ細かい黒色土で、しまり、粘性ともにかなり強い。

水田面では多くの凹凸が観察されている。しかし、攪乱を受けている部分もあり、それらは不明瞭なくぼみであるため、人、あるいは動物の足跡と判断できるものはなかった。

遺物はほとんど見つからず、土師器の小片が数点出土したのみであった。

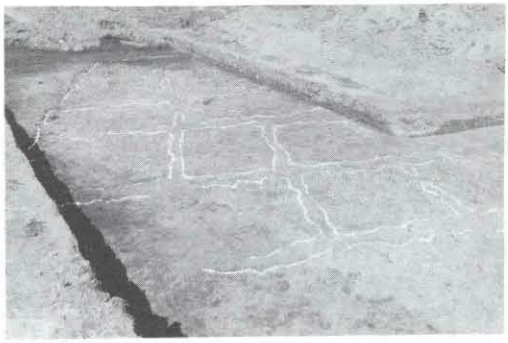


小塚遺跡水田址(北東より)



小塚遺跡水田址(南西より)

小塚遺跡水田址(東より)



小塚遺跡水田址(西より)

Ⅶ まとめ

今回は3遺跡を調査したわけであるが、どの遺跡からも古墳時代の遺構が比較的多く検出された。住居址・水田址と、前年度の七日市遺跡A区の調査で検出された遺構とほぼ同時期の遺構が認められる。古墳時代から現在までも広範囲で水田耕作が続けられていたと言えよう。調査範囲が幅の狭い限られた区域であったため、遺跡全体を見通すことは困難であり、まして当時の地域全体の様相を把握することは不可能である。しかし、今後の横尾地区の遺跡調査を進めるにつれて新たな資料も増し、他の遺跡との比較検討によって判明することも多くなると思われ、不十分ながらも重要な資料となるであろう。

現在のところ、横尾地区遺跡群の調査で検出される遺構のほとんどは古墳時代以降のものであり、弥生時代の遺構として確認できるのは住居址1軒だけである。この住居址は、中之条駅南側の川端遺跡で多く検出されている弥生時代後期のものと同時期の遺構であった。このことは、名久田川沿いにも弥生時代後期の集落地が存在した可能性を打ち出していると言えよう。今後の調査によって、中之条町における各時代の集落分布や耕作地等の状況が徐々に明らかになってくることを期待したい。